

明治三十六年度



## 時弊を論じて女生諸子に告ぐ

現今我國多數學生の滔々として相率ゐて陥る所の誤謬あり、表面何の不都合なきが如くなるも其の實害毒を社會に流すこと極めて劇甚なり。視よ、社會の現狀を。何故に政界は混亂し、教育界は腐敗し、實業界は振はざるや、其の原因は遍く吾人の脚下に在り。今にして之を改めざれば臍を嚙むも亦救ふべからざるに至らん。嗚呼青年子女よ、今の時に當り、よく事實の真相を穿ち眞理を看破し、國家百年の大計をなさんこと、實に余の切望に堪へざる所なり。されば余は茲に其の真相を眩ましつゝある脚下の原因を指摘し、以て聊か諸子の猛省を促さんと欲す。

### (一) 第一の誤謬は本末を顛倒し、目的と方法とを前後するにあり

意志のある所、精神目的の存在する所必ず之を達する道あるは萬古不易の眞理なり。而して其の意志精神目的は前にして、之を達するの道は後なること勿論なりとす。然るに今日の教育家たり學生たる者、其の目的精神意志の至要なる事を忘れ、却て方法手段を以て、最大重要事件なりとし、之がために汲々乎

として、是日も足らざるの觀あり。斯の如くにして、果して彼等は教育の目的を達しつゝありや、之を思ひ之を考ふるときは、實に痛歎に堪へざるものあり。例せば世の英文學を學ぶもの、目的は何處にありや、一定の目的、理想、精神なるものありて、之を實現せんが爲の方法手段として、英文學を修めつゝありや。否多くの英文學生は、本末を顛倒し、目的と方法とを前後し、其の志立たず、徒らに枝葉に馳せて力を浪費し、事の眞髓を看取し、以て己が學識を養ひ己が品性を養ふの助けとなすこと能はず、單に自由に英語を操り、自由に英文を書くのみを以て足れりとなすが如し。斯の如く本末を顛倒するが故に實の山に入りつゝも、寶玉を獲取する能はず、徒らに糟粕を嘗むるを以て能事となし、眞に其の實質を取ること能はず、故に多くは輕佻浮薄の人となる亦在むに足らざるなり。本末顛倒の弊戒めざるべからず。國文學を修むるものは如何。彼等も亦其の目的あり、精神ありて、其の目的を達する方法として國文學を修むるにあらず、只其の方法のみに汲々たるなり。即ち國文學の虚飾的部分を取りて、己を虚飾するに過ぎざるが故に、多くは病的感情家となり、不健全なる病的思想家と變ずるなり。彼等はそが眞髓を見出すこと能はずして、漫りに末に走り、自己の品性を養ひ、健全なる思想を造ることを務めず、自ら好ん

で章句の學に走る。又科學を修むる人は如何、彼等は何が故に科學的知識藝能を學びつゝあるか。實に此等の知識藝能は、其の知識藝能の爲に之を學ぶにあらず、他に一の大目的ありて、之を達する方法として、手段として、食物として之を學ぶべきなり。然るに精神なき人は科學の爲に科學を學び、藝能の爲に藝能を習ひ、多くは利己的人物となる。是れ手段と目的とを混同し、本末を轉倒するによらずんばあらざるなり。

今假りに諸子の中に、直接に教育に従事せんと欲するものありとせんに、是れ決して惡しきことにあらず、否却つて社會の爲に必要なことならん。然れども、其の目的と方法との前後を辨へず、之を轉倒誤用する時は、藝人的教育家、職人的教師と變じ、只注人的知識を人に傳播するを教育と誤解するに至るべし。諸子は大に茲に注意して、眞の教育家たる品性を養ふべし。即ち教育家たる精神上の感化力及び潤るゝことなき眞知識の源泉を造らるべし、此の品性を養ひ、實力を得ば、諸子は何處に行くも、如何なる事を取るも、其の人に應じ、其の性質に應じたる教育を施し、以て有爲なる日本國民を造り得べきなり。然るに、若し諸子にして其の教育家たるの品性を造ることの後にし、之を如何に與ふべきかの方法を先きにせんとせば、諸子も亦本末を顛倒するの誤謬に陥るものなり。深く猛省する

所なくんばあるべからず。

## (二) 地位と本務とを轉倒す

今日の學生は何を懸念するや。恐らくは學校卒業後如何に世に處すべきか、吾人は理想と主義とを有するも之を實現するの地位ありや否や、とは彼等の最關心する所ならずや。我はかゝる能力と知識とを有するも、人之を悟らず、人我を買はず、とは是彼等の最大不平ならずや。實に世人は地位によりて幸福を得んとし、地位によりて事をなさんとし、地位のために不満を懷く者なり。今日の學生の呼聲は何ぞや。我に地位を與へよ、我を高き地位に置くべしとは是れ彼等の大聲に疾呼する所ならずや。是れ實に大なる誤謬にして、主客を轉倒せるものと謂ふべし。諸子は決して地位を願望するに及ばざるなり。名譽ある地位は、諸子を待ちつゝあり、光榮ある地位は諸子をさし招きつゝあるなり。世は責任に耐え得る人乏しきに苦しむなり。諸子は決して地位を懸念するの要なし。諸子の汲々として務めざるべからざる所は他にあるなり。

諸子には諸子の本務天職あり、諸子は此の本務天職を完ふする爲に、凡ての能力と、凡ての注意と、凡ての時間とを傾注せざるべからず、如何なる困難辛苦も耐へざるべからず、又其の

本務を盡す爲には品性を陶冶せざるべからず、知識藝能を修めざるべからず。諸子は果して其の天職の爲に本務の爲に努力しつゝありや。是れ諸子の大に懸念し、熟慮すべき要點なりとす。吾人は各自の當に盡すべき天職を知り、之を完ふすれば則ち終生の目的は達せられたるなり。假令吾人は婢となるも、婢たるべき本務を忠實に盡すことを得たらんには是れ既に成功の端緒を開く者と謂ふべし。若し諸子にして、各自の本務天職を重じ、之を完ふすることに全心全力を注ぎ、本務を盡すに必要な條件を具備せんとするには、須らく凡ての虚偽を廢し、虚飾を廢し、そが實質を取るべきなり。然るに今日の學生、多くは地位を拜し地位を得るために化粧し、徒らに金箔を以て世を糊塗せんことを希望し、只管表面に顯はれたる形式的學問に着眼し、自己の分を忘れ、天職を完ふすることを忘れ、汲々として虚榮虚名を博せんことを冀ふ。而して世人も亦品性實力の如何を分析するの頭腦なければ、其の外形を見て徒らに之を崇拜し、金箔を尊んで其の木偶たるを知らず、彼等は如何なる品性、如何なる意志、如何なる節操あるか。試にこれを分析してそが外部を裝飾せる所、虚榮虚位の金箔を剥ぎ取れば、吹けば飛ぶ如き輕浮の人物なり。彼は幸に其の地位を得るも、虚偽的にして實力あるにあらざれば、人を欺き自らを欺き、其の地位

をも己をも害し、終に國家の運命をも危くするに至るべし。若し夫れ不幸にして、斯の如き暗流が、今日我國の人心中に流れつゝありとせんか、そは實に由々敷大事に非ずして何ぞや。地位と本務とを轉倒するの害毒も亦甚しき哉。

現今西洋諸國の傾向は大いに之と趣を異にするものゝ如し。想ふに如何にせば進歩し得べきや、如何にせば實力を養ひ得べきや、とは彼等の苦慮する所にして、虚偽は彼等の目的とする所にあらず。彼等の日夜務むる所は、自己の天職を看取し、之を完ふするの準備として大學に入り、其の目的の爲に必要な學業を修むるものゝ如し。故に我邦多くの學生に見る如き、虚榮の爲に金箔の爲に貴重の年月を浪費する者稀なり。天職の爲に、其の本務のために孜々汲々たるに似たり。諸子は宜しく目的の爲に、理想の爲に本務を盡す爲に勇往邁進すべく、決して地位を問ふを用ひざるなり。諸子は早く天職を先きにし、天職に忠實なるべきなり。若し只管天職に忠實なることを務め、本務を盡す事に努むる時は、如何なる誘惑も如何なる艱難も自ら讓歩し來り、諸子の前途は、洋々たる希望を以て満たさるべし。よしや、不幸にして成功せずとも、余は之を以て成功の生涯と云はんと欲す。

### (三) 然らば其の天職とは何ぞや

諸子が一生涯中全心全力を注いで實現すべき本務天職とは、抑も何事ぞや。之に答ふる必ずしも困難にあらず、諸子よ請ふ耳を傾けて靜に聽かれよ。手を舉げて諸子を招き大聲疾呼來れ來れと云ふ者あり。知らず諸子はよく其の呼ぶ聲を聞き得るや、其の招く手を見得るや。其の聲や至つて切なり、其の手や極めて急なり。斯の如く諸子を招き諸子を呼びつゝあるものは何ぞや。若し夫諸子にしてよく其の聲を聞き、其の手を見ることを得、而も之に應ずるの力、之に應ずるの準備あるときは、容易に諸子の天職を看取することを得ん。諸子はその聲の何處より響きつゝあるを知る乎。大は國家社會より、小は學校家庭に至る迄、到る所より、諸子を招き諸子を呼びつゝあるなり。實に今日は瞬時も猶豫すべからざる急務あり。然るに、之に應じ得るの人は極めて稀なり。地位名譽權力を與へよと絶叫するの人は、雲霞の如しと雖も、本務の爲に一身を捧げ國家社會の必要に應じ、一身の利害得失を顧るに暇あらざる人は、寥々として曉天の星も營ならざるなり。諸子を知るや知らずや。今日我國を壓迫しつゝある困難一にして足らず、人倫の頹廢は云はずもがな、財源の乏しき資力の不足なる、萬般事業の不振なる

等枚舉に遑あらずと雖も、是れ未だ以て最大憂患とするに足らず、我國現下の最大憂患は人物の缺乏はれなり。何れの方面何れの場所にも、實に人物拂底の嘆聲を耳にせざるはなきなり。是れ實に悲むべく恐るべきの一大弱點なり。尙他に一の弱點あり、そは人物の拂底を知ると雖も、身自ら率先し、決死の覺悟を以て、其の衝に當るの人物のなきこと是れなり。是れ我國目下の缺陷中の最大缺陷なりとす。目下の形勢、それ斯の如し。我國國家社會が女性に對して非常なる熱望を囑し、恰も諸子に希ふが如く、諸子を呼びつゝある亦宜なりと謂ふべし。諸子或は想はん、醜て自己の力量如何を顧れば、實に薄弱極るものにして、斯の如き重大なる任に堪へず、之を口にするは易きも、之を實行するは難しと。されども、世の識者中、女子と雖も、尙且かゝる衝に當り、社會の改善に相當の助力を與ふるに足るとの信仰を懷くもの尠しとせず。余の如き不肖も亦識者の驥尾に附して、しかく確信するの一人なり。固より其の事たる、困難は則ち困難なりと雖も、昔時奈翁が危急存亡の秋に當り、決死隊を募るや、號令一發全軍隊は一體同心、斷念決意、驀地に進軍し、忽ち敗を變じて勝利に歸するを得たるが如く、諸子に於ても眞に其の要求の聲を聞き、直に決心し、國家の要求、社會の必要に應ずるの勇氣と之を實行するの忍耐とあらば國家社會

の救済豈望なしとせんや。されども諸子は一の疑問のために、躊躇逡巡、決すること能はざるものあらん。想ふに諸子は一方には國家社會の聲を聞くも、又他の一方には、父母の聲を耳にせられ、近き父母の聲に應ぜずして、遠き國家社會の聲に應じて、之に盡すは難し、如何せば可ならんかと。然れども、是れ實に事の真相を解せざる人の言なりとす。國家社會に對する本務と、父母に對する本務とは、必ずしも相衝突するものにあらず、假令衝突するの外觀あるも、そは外觀皮相上の衝突にして、眞正の衝突にあらず、眞正に國家に忠たるは家庭に忠なるなり。眞正に父母に盡すは國家に對する本務なり。國家の聲と、父母即ち家庭の聲とは、二にして一、一にして二なるものにして、其の眞相に於て決して相衝突するものにあらざるなり。要はよく其の緩急前後を商量して、事の宜しきを得るに在り。

第二に諸子の躊躇する點は、此の本務たるや、至重至要なるものなれば、之に應ぜんとは欲するもの、顧みて自己の力量を考一考すれば、徳薄く學淺く、到底かゝる重任に當るに堪へず、若し強て之に當らんか、力量足らず反て自己の生命をも失ふに至るべしと云ふにあらんも、余は斷じてしかく考へざるなり。若し諸子にして、眞に此の大任に當らんと決心せば、諸子

の手腕は纖弱なりとはいへ、争てか救ひ得ざらんや。否之を救ひ、之に生命を與ふるは、却て諸子の天職にあらずや。嘗に諸子は之に當り得るの力量を有するのみならず、諸子天職の性能は、之に當るに適せるものならずや。古來各國の歴史を繙き、其の盛衰消長の跡を尋ぬるに必ずや其の因て來る所あり。何れの國にても、時に或は非常なる大患に罹り、危篤の状態に迫ること少からず。斯の如き場合に際し、眞に國家の疾病を癒すの治療を施し、危機を挽回するの政治家改革者起り、國家を九鼎の安きに置くことあり。余は必ずしも直接諸子が是等の治療切斷をなし得るものなりと云はざるも、かゝる勇氣ある醫者を呼び起し之に大手術を行はしむるの刺戟を與へ、或は之が看護の衝に當り、其の傷口を洗滌し神經過敏を慰撫し之に休息を與へ、或は又其の間に起る衝突を融和溶解し、腐敗したる社會を潔白清淨にするの感化力あるを信するのみならず、同情同感に富み柔和従順にして一身を犠牲に供へ、克く忍び、よく耐ふるの力を備へたる諸子は、今日の如き社會の腐敗を治療するの任に適當したるものと信するなり。

佛のアードルフ・モーノーは曰く「天地間にて此の世界を感化する最大の力は婦人の手中にあり、而も善感化惡感化孰れも婦人の手中にあり」と。又佛國或學者の報告に「佛國に於ける

中流以上の犯罪人百中九十九までは、其の原因婦人にあり」と云へり。又ローマの學者ケートは曰く「ローマ帝國は世界を統轄するは婦人なり」と、今之をローマの歴史に徴するにケートは吾人を誑かさざるなり。ローマ婦人の眞に本務に忠實なりし時、換言すればローマが婦人に重きを置きし時は、ローマ全盛の時代にして、ローマ婦人の本務を怠りし時は、ローマ滅亡の時なりしなり。古來歴史家の豫言せし如く、國の興るも衰ふるも、其の原因は婦人にありと云ふは、必ずしも誇張の言として退くべきものにあらざるなり。此の論點より見れば、我國家の疾病即ち風俗の頹敗、社會良心の痲痺は各個人の腐敗に因る。而して各個人を腐敗の潮流に投入したるものは、家庭の與つて大に力ある所なり。而も家庭より斯の如き濁流、流出するに至りたるは女子に大關係あるや明かなり。蓋し個人の品性は主として母の養成したるものなればなり。是れ決して必ずしも架空の想像説にあらず、因より活眼達識の英雄豪傑又は知徳兼備の賢人君子は、皆自己の成功を母に捧ぐと云へり。實に然り。かゝる見地より論じ來れば、今日の社會の風儀を産み國民の品性を養ひ來りたるには、母の力大に與つて力ありと謂つべし。國家社會の腐敗を清めんには先づ本源を清めざるべからざるは、言を俟たざる所なり。然らば、我國目下の最大急務は、そ

の本源を清むるにあり。然らばその本源は何處にありや。其の本源必ずしも唯一ならざれば、同一場所に限ると云ふ可らざるは勿論なるも、家庭は慥にそが一大本源なり。内外に於ける婦人の職務種々あるべしと雖も、家庭は婦人の王國とも云ふべきものにして、而も家庭に於ける婦人の本務中、最必要なるものは、子女教育なりとす。家庭の子女教育よく其の實を擧ぐるを得んか、社會の混濁は自ら清淨なるに至らん。今日に當り之を救ひ之を清むるは、實に諸子の手にあるなり。諸子は社會の本源たる家庭を清め、精神あり品格ある人を作るの婦人となるは、是れ眞に國家を救ふの大原因なりと云ふべきなり。

然れども諸子は之を我二千萬人の同胞姉妹に比すれば、實に大海の一滴九牛の一毛なり。如何にしてかゝる少數の人を以て國家を救ひ得るやと懸念せらるゝならんも、眞にモデルとなる人ならば我國同胞の感化救済は決して望なきにあらざるなり。然るに此の二千萬の同胞姉妹を感化救済するには眞の教育必要なり。小學校に於ても幼稚園に於ても、將又社會に於ても、眞に有効なる教育を要するなり。知らず、現今の學校は果して是等の感化力を與へつゝありや、今や此等の改善を謀らんとするには、あらゆる方面に向つて力を傾注せざるべからざるも、凡ての母の眼を覺醒し、其の源泉を清むるの母を作るは、慥に有

効なる方便の一なりと信ず。而して之がために諸子は或は學校に、或は家庭に、或は社會に入りて、或は教師として、或は寮監として、或は妻として、或は實業家として、凡ての方面に向ひ、各自適當の働をなさざるべからず。要するに立派なる家庭を作り、母を作るは、健全なる國家を作る唯一の方法にして、又諸子の唯一の天職なりとは云はざるも、慥に目下我邦社會の諸子に向つての切なる要求に非ずや。嗚呼諸子よ、俗眼より見れば、諸子の地位或は卑からんも、諸子の責任や極めて重大且大なり。冀くは堅忍不拔の精神を以て、熱心着實に、本務の遂行に努力せられんことを。

〔學報〕第一號)

## 進歩主義女子教育の一端

女子教育上、吾人の執る所の主義方針は、本誌第一號發刊の辭中に於て、既に大略之を盡せりと雖も、前號の所説は唯そが大體の綱要を概言したるに過ぎず。吾人は本號以後、時々そが細目に就て、之を陳述する所あらんとす。勿論そが細目を陳述すると云ふも、それは必ずしも系統を立て、論述するの謂ひには非ず、唯折に觸れ、機に應じ、吾人の感ずるが儘を、斷片的に

開陳するのみ。要は吾人の執る所の主義方針を明かにするの方便たるを得ば則ち足れり。

### (一) 保守と進歩

保守は停滯不動の別名にして、進歩は改善發達の異稱ありとせんか、苟も進化の理法を信する者は、政治家にせよ、宗教家にせよ、將又教育家にせよ、誰れか我こそ保守主義者流なれと自稱して得々たる者あらんや。然れども保守は進歩に對し、進歩は保守に對したる名稱にして、恰も物理學上に謂ふ所の寒暖冷熱相互の關係と一般なり。抑も熱なる者は、分子のエネルギーにして寒熱は分子エネルギーの多少より岐れ來るものなれば、寒とは少量エネルギー、即ち少量熱の謂ひに過ぎざるが如く、進歩とは改善發達の謂ひにして、保守と進歩とは、改善發達の緩急より分れ來るものなれば保守とは比較的に緩慢なる改善進歩の謂ひに過ぎざるなり。されば、保守と進歩とは、寒暖冷熱と一般、全然そが性質を異にする所の別種類のものに非ずして、單に程度の差異に命名したるものたるや明かなり。乍併よしや保守と進歩とは程度の差異に過ぎずとするも、其の間亦必ずしも一定の限界線なしとせんや、想ふに保守とは現狀變化よりも、寧ろ現狀維持に傾き、改善發達の必要を左程に認識せ

ざるの謂ひにして、進歩とは現状維持よりも、一層現状變化に傾き、改善發達の須要を多大に感知するの謂なりと概言するを得んか。果して然らば吾人は女子教育上、兩者の内、孰れの主義を執るものなりやと云はゞ、如上の意義にての進歩主義女子教育を主張する者なりと答へん。

然りと雖も、進歩主義にも亦種々の程度あり、或は漸進主義あり、或は急進主義あり。若し夫れ漸進主義とは、必ずしも遅々緩々たる進歩を希求するものに非ざるも、危険にして有害なる急激突飛の變化を避けて、折角從來の經營慘憺の餘に成れる進歩を、退却破壊するの愚を學ぶことなく、出來得る限り急速に、秩序整然たる生長發達を遂げんことを切望するものにして、急進主義とは、之に反して、過去の歴史を無視し、現在の狀況を蔑如し、退歩破滅の悲境に陥るの危険をも堵し、一躍突飛して、彼岸の理想境に到達せんことを企つるもの、謂ひなりとせば、吾人は名稱の如何を問はず、敢てかゝる漸進主義の女子教育を主張する者なりと答へん。然るにかゝる進歩主義女子教育は、或は急進主義者流の立脚地よりは、因循姑息の惡弊に安ずる者と嘲られ、或は保守主義者流のそれよりは、急激破壊の暴擧を企つる者と難ぜらるゝことあらんも、亦止むを得ざるなり。蓋しかゝる進歩主義は、一方に於ては、高尚なる一定の

理想を懷抱し、之に向つて常に絶えず向上せんことを熱望するのみならず、境遇機會の許す限り、神速に前進せん事を努むるものなれば、保守家より之を視れば、急激突飛の徒たるを免れざらんも、亦他の一方に於ては、徒らに高尚なる理想を追求するのみを知つて、脚下に横る退歩破滅の泥溝に沈淪せざらんことを期し、周到綿密に、前後左右の關係を商量し、歩一步と確實の進歩を遂げんとするの方針を執るものなるが故に、急進家より之を見れば、因循姑息の輩たるの觀を呈することあらん。さりながら、今の時に當り、本邦女子教育上の主義方針としては、かゝる進歩主義の外、別に最も確實に、最安全に、又最急速に、良好健全なる結果を來すべきものなきは、吾人の信じて疑はざる所なり。

## (二) 舊家庭と新婦人

吾人の主張は、それ斯の如しとするも、其の言餘りに抽象に流るゝの嫌ひあれば、茲に聊か一二の例を擧げて、それが實際の方面に就いて述ぶる所あらんとす。夫れ、既に進歩主義を執ると云ふ以上は、かゝる教育主義の下に薰陶せられたる新婦人は、舊日本の家庭及び社會の空氣中に生育したる舊婦人と其の思想、其の感情、其の嗜好等の精神作用より、言語應對、坐作

進退の外部動作に至るまでの其の趣きを異にする所や多からん。斯の如く、其の思想感情等を異にする所の新舊婦人が同一家庭に共棲するや、之を自然の儘に放任し置かば其の間に衝突を生ずるや必せり。然るに、其の衝突の結果、舊婦人勝つて新婦人敗れんか、我邦の家庭は、それ何れの世にか、果して改善せらるゝを得べきぞ。さればとて、新婦人突貫凱歌を奏し、舊婦人敗北せんか、我邦の女子教育は、茲に再び一大頓挫を來し、延ては家庭の改良も亦覺束なき至るや必せり。然らばかゝる衝突によりて新舊の婦人、孰れが勝つも、孰れが敗るゝも、共に我邦家庭の不利たらずんばあらず、之を如何せば則ち可ならんか。舊婦人をして其の思想感情を入更へ、從來の舊習を蟬脱し、新婦人と調子を合せ、足並みを揃へ、以て家庭改善の途上に馳驅するを得せしめば、則ち極めて妙なりと雖も、是れ泰山を挾んで、北海を越ゆるの類のみ、云ふべくして行ふ可らず。されば、後繼者たるべき女子に、新教育を授くれば、之に教ふるに女大學を以てし、之を飾るに、詠歌彈箏、焚香點茶、生花禮式のみを以てするに止め、以て舊婦人の思想感情に投合せしめなば如何。是れ實に金銀を變じて土塊となし、寶玉を碎いて砂礫となすと一般、愚物に非ずんば則ち狂者の業のみ、焉ぞ一顧の價値あらんや。舊婦人をして、新ならしむる能はざれ

ばとて、宇内大勢の趨向に反し、社會進化の理法に背き、此の日進月歩の時代に生れたる若年女子に、舊式の教育を授くる能はずとせば、吾人は如何なる方法を講じて、此の難局に處すべきぞ。吾人に唯一の方法あり、吾人は平生之を稱して、「彈力ある婦人の養成」と云ふ。茲に三人の女子あり、共に新教育によりて、新らしき精神と、新らしき理想とを養ひ、胸に新知識を蓄へ、腕に新藝術を覺え、舊風の家に婚嫁し、そが主婦となりて家政の主權を掌握するに至りたとせんに、一人の婦人は善惡正邪、便不便の差別なく、戰々兢々として、良人の意を迎へ、唯々諾々として、舅姑の命に服し、嘗て蓄へたる新知識を活用せんとせず、嘗て覺へたる新藝術をも利用せんとせず、何等の家庭改善に貢獻する所なく、遂に其の折角受け得たる教育を水泡に歸せしめ了んぬ。かゝる婦人は有害の婦人にあらざるも、未だ有益の婦人とは稱するに足らざるなり。吾人豈に敢て、良人の意に従ひ、舅姑の命に服するをもて、不可なりと云ふものならんや。されど、そが新教育によりて得たる新精神と新理想とを放擲し去つて、新知識と新藝術とを活用することとは能はずと云ふに至つては何たる薄志弱行ぞや。然るに第二の婦人が舊式の家庭に入るや、新知識を嘯々し、新藝術を喋々し、舅姑の頑迷固陋にして迷信に惑溺し、無學文盲にして事理

に暗昧なるを嘲笑し、良人の言行、律儀なれば、輒ち之を厭ひ、その品行面白からざれば、輒ち之を怒り、その待遇親切なれば輒ち之に狎れ、嘗て學びたる新精神と新理想とを亂用し、氣隨氣儘の云爲行動をなして、尙且つ恥を知らずとは、何ぞそれ輕佻浮薄の太しきや。前者は全然境遇に壓倒せられて、再び伸張するの彈力なき薄志弱行の徒にして、後者は漫に境遇の支配する所となり、衝動の儘に活動するのみにして、逆境に對するの忍耐力なく、順境に對するの思慮なき輕佻浮薄の輩のみ。薄志弱行の婦人は、吾人の執らざる所なりと云へ、益なしとするも、亦害なきの徒なれば尙忍ぶべし。益なくして、而も唯害のみある所の輕佻浮薄なる婦人に至つては、誰れかよく之を忍ばんや。然るに第三の婦人に至つては、則ち全然此の兩者と選を異にし、そが舊風の家庭に嫁ぐや、平素學び得たる精神と理想とを、常に念頭に浮べて性格を修養し、機會の許す限り、知識藝能の進歩發達と實地の應用とを謀り、以て家庭改善の資に供せんことを努むるも、夢にだも學藝に誇らず、克く舅姑を敬し、克く良人を愛し、克く子女を教へ、若しそれ舅姑の賛成を得難き場合あるか、又は良人の同意を得難き場合あらんには、甘んじて舅姑の説に従ひ、良人の意に服し、誠意誠心より敬愛の道を守ると雖も、精神を挫き、理想を棄つることなく益々之

を養ひ、之を研ぎ、克く忍び、克く耐へて、徐に時機の到來を待ち、かくて舅姑良人の信用する所となるや、直に學藝を應用して、理想の實現を勉め、以て家庭の改良を計り、嘗て怨まざ、嫉まず、又悲まず、怒らずとせんか、かゝる婦人こそ、吾人の所謂彈力ある所の伸縮自在なる婦人ならぬ。是れなん吾人が新舊過渡の時代たる今日に於て、現出せしめんと欲する理想婦人の一端にぞある。想ふに第一種の婦人は、保守主義教育の産物と變じ、第二種の婦人は、急進主義の産物に類し、共に兩極端に偏する所以は教育の指導、其の宜しきを得ざるに因由せずんばあらず。然るに第三種の婦人に至つては、中正穩健なる漸進主義教育の正當なる産物にして、克くそが中庸を得たるものなりとす。新舊過渡の現時代に於て、家庭改善の重任を托すべき婦人は、かゝる教育主義によりて養成せられ、かゝる彈力ある婦人の外、またあるべくも思はれざるなり。

### (三) 政治問題と新婦人

嘗て桂内閣が、伊藤内閣に替つて、組織せらるゝや、府下の某新聞は傳へて曰く。日本女子大學校に於ては、生徒に課するに桂内閣の前途を下すてふ政治問題を以てせりと。當時吾人は之を讀みて以て、新紙の報ずる所、強ちに信を措くに足らざる

の一證として、唯一笑に附し去り、亦念願に懸けざりしが、其の後桂首相の本校に來觀せらるゝや、成瀬校長に向ひ、戯れに問ふに、此の事の虚實を以てし、以て一場の笑柄とぞなりける。想ふに、桂首相は云ふにや及ぶ、某新紙の如きに至つても、かゝる事の事實にあらざるを信するも、只紙上の興を添へんが爲に、一場の笑草として掲載せられしならんか。然れども多數の讀者中には、かゝる無根の記事をも、事實として信じる者なきを保せんや。現に之と類似したる虚報あり、殆んど之と同時に、同一新紙によりて、世間に傳へらる。曰く女子大學の生徒は、下田歌子女史等と共に、講道館の門下生となり柔術の指南を受くと。然るに思ひきや、頃日發行の或新聞紙上に、何某となん云へる文學士の筆になれる文あり、そが中に、さも事實らしく、此の事のかき連ねられて、立論の證據に供せられたるを見んとは、既に此の事に關して、今日に至るも、向かゝる誤信を。かゝる文士さへありとせば、彼の事に就ても、亦同一の誤信なしと云ふを得んや。さればかゝる問題に就て吾人の所謂進歩主義教育の應用を陳ぶるも、亦無益の業にあらざるべし。

前號發刊の辭中にも述べたる如く、吾人は我國民の一半、社會の半面を組織する婦人にして、若しそれ國家の消長、社會の

汚隆に無頓着なるが如きは、實に國家社會の一大不幸たるを以て、之に國民たるの觀念と、社會の一員たるの自覺とを與へ、以て國家社會に對して婦人たるものゝ本務を完ふせしめんことを欲するが故に、本校の規則書中にもあるが如く、帝國憲法を初め、其の他諸の法制並に經濟學の主要を授け、以て國民としての婦人に必要なる法の法律、政治、經濟等の思想の一斑を養はしめんことを期するものなれども、吾人は目下の立脚地より之を見れば、本邦婦人を誘うて政治問題の活動場裡に導き、直接政治に關與せしむるの必要を認めざるのみならず、婦人の爲を謀るも、亦決してそが利益あると信する能はざる也。況んや、本邦婦人の眼前に横る一大急務の別に存するものあればなり。吾人は婦人の權利の擴張せられんことを冀はざるに非ず。されども、内部實力の發展に伴はざる權利は、眞正の權利にあらず、賀すべきの權利にあらざるは、恰も國力充實せざる國家が、邦土を占領し、却つて之が爲め本國發達の機運を妨害せらるゝと一般なりとす。若し夫れ婦人の人格にして、充分に開展し、そが實力増進するに至らんか、權利は求めずして來るべし。然らば目下我邦婦人の勉むべき所は、權利の追求にあらずして、人格の修養、實力の養成にあるや知るべきなり。人格修り、實力成らば、當然婦人の權利たるべきものは、自然に附隨

し來るべし。吾人は婦人の権利の伸張するを嫌惡せず、さればとて、吾人は強いて急激に婦人の権利を擴張せんとはせざるなり。吾人は唯婦人の権利の、内部發達の結果として發生し來らんことを欲す。されば、吾人が如何なる點に向つて、吾人の主力を傾注し以て女子教育に従事しつゝあるかは、云はずして判明ならん。然りと雖も、吾人は希望す。婦人とは云ふもの、今後苟も高等教育を受けたらんものは、世界の大事は更なり、内外國力の優劣さては立憲政治の何物たる等に就き、聊かも辨知する所なく、政治上經濟上の事柄とし云へば、馬耳東風に聞き流し、更に何等の興味痛痒をも感ぜざるが如きことなからんを。北政所高臺夫人を見ずや、才知英邁、屢々内議に與り、外は軍事上より内は家政上に至るまで、注意周到、克く事を執り、太閤秀吉が大業を成し、は、夫人の内助與りて力ありと云ふに非ずや。俊傑秀吉にして既に然り、況や他の普通の人に於てをや。誰れか好内助を欲せざるものぞ。蓋に好内助の個人個人に必要なのみならず、國家に於ても亦然り。好内助の多寡は、實に國力の消長を示す寒暖計なりと云ふも亦過言にあらざる也。それ知識は勢力にして、或は有害の勢力となり或は有益の勢力となる。若し政治經濟の知識を以て婦人の虚榮心を満足せしむるの具に供せんか、婦人自家は勿論、社會國家をも害す

べし。要する所は、知識を亂用せず、之を以て自我發達の資に供し、社會進歩の用に備ふるに在るのみ。乃ち女子教育上、第一着に必要なは、精神の修養、人格の鍛鍊に存することは亦云はずもがな。

〔學報〕第二號

### 婦女新聞の三週年を祝す

福島君足下 君が苦心慘憺、以て經營せらるゝ婦女新聞、君が刻苦勸勵、以て主監せらるゝ婦女新聞、今や正に日出度三週年の春を迎ふ、豈一言の祝辭なきを得んや、而して祝辭を呈する所以は、單に三週年の春を迎へたるが爲にあらざ、そは時間の經過そのものにして、多少の價值なきにあらざるも、その價値の大に生ずるは、その如何に經過せられたるやに存すればなり。

君は婦女界、過現末の三界に眼を注ぎ、大に感ずる處あり、袖手傍觀するに忍びず、於是乎苦心慘憺、婦女新聞經營の衝に當られ、刻苦勸勵、常に建設の精神を以て、婦女界の事業を獎勵し、穩健中正の意見を以て、婦女界の趨勢を指導せられ、以て婦女界の進歩發達の爲に貢獻せられたること實に少なからざ

るなり、是れ余の敢て蕪辭を呈して祝意を表する所以なり。

〔「婦女新聞」第百五十七號〕明治三十六年五月

## 日本女子大學校の二百十日

今年はず年と違ひまして、引續いて大變に好い天氣でありまして、其の爲に總ての農産物が非常に良く出来ました。百姓は勿論の事、全國民は大喜びで、全國の人氣がどうやら恢復しさうになつて來ました。斯かる好時期に際しまして、私共一同無事に歸校して、今日から本學期の學業に取掛かるといふ事は、誠に喜ばしい事であります。

### 二百十日と二百二十日

然るに我國民は、斯の如く非常なる喜びに出逢うて居りますと同時に、又一つの大心配を總ての心に抱いて居ります。それは何であるか、申す迄も無い、明日の二百十日……、二三日前からどうも天候が悪いやうでありますから、皆心配して何時も天を眺めて居ります。それで朝、起きまして新聞紙を手にするや、第一に測候所の報告を見ると云ふ有様で、どう天候が變ずるであらうかと言うて大に心配をして居ります。今日は全國民

の眼は、明日の二百二十日といふ現象に皆注視されて居るのでありますが、尙それよりも一層全國民の注意を惹いた所のものは既に過ぎ去つた二百十日でありました。此の二百十日は幸にして無事に過ぎましたからして、其の時の日本國民の喜びは噓ふるに物無い程でありました。それが爲に今まで沈衰して居つた人氣が大に引立つて、社會が活氣を帯びて來ました。それが段々經濟界に影響しまして、此の頃に至つては利子を引下げるといふやうな結果になつて參りました。此の二百十日とか、二百二十日かといふ天候には、毎年々々人の注意を惹くことであるが、今年はず年に無い、否日清戰爭以來無い、或は北京籠城以來無い人々の注意を此の二百十日の上に集めたのであります。

何故に今年の二百十日或は二百二十日は、多くの人に注目されたのであるかといふ事を考へて見ますと、二つの譯があるであらうと思ひます。其の一は、此の頃に至りまして長い間苦んで居りました我邦の經濟界が、天の一方に微かなる光明を認め來ましたから、此の時に當りまして、若し今年の米作が豊稔であつたならば非常に此の經濟界の勢を挽回するといふ望みが出來て來るからであります。モウ一つは日露の關係が段々迫つて來るやうに見えて、此の非常に大切な二百十日を待ち

つゝあつた頃に、其の評判の熱度も益々高まるやうに見えたか  
らであります。此の問題の如何に解決されるかは、世界の平和  
に大關係のある事柄で、獨り日露の國民のみならず世界の人々  
の視線は、皆此の極東問題に注がれて居つたのであります。斯  
の如き時に際しまして若し我邦の農産物が豊作であつて、之が  
爲に大いに人氣を引立てたならば、若し又之に反しまして、今  
年の日本の米作が凶作であつて、それが爲に日本の人氣が沮喪  
したならば、此の大危機とも言ふべき時に當つて、此の問題に  
大影響を被らすといふことは必然の勢であらうと思はれる。さ  
う云ふ實に我邦の大切な時期でございましたから、殊更に人々  
の注意が二百十日或は二百二十日といふやうな大切な日の上  
に注がれたのであらうと察せられます。

### 新に生れた我校

是は既に過ぎ去つた、又最早大抵無事に過ぎ去らうとして居  
るところの此の二百十日と二百二十日の御話でありますが、之  
に最もよく類似して居るところの一つの事柄が、我々の間に唯  
今存在して居るのであります。それは何であるかといふと、此  
の日本女子大學校の二百二十日であります。此の日本女子大學  
校の第一の收穫如何といふことであります。我邦の教育界は丁

度此の頃の經濟界のやうに、長く沈衰いたしまして、失敗に失  
敗を重ねて、弱り切つて居つた時におきまして、此の學校は新  
しき希望と新しき精神と新しき方針を以て、此の世の中に生れ  
出たのであります。夫故に、此の學校の生れたといふことは、  
非常に世間の注意を惹起したのであります。併しながら、果し  
て此の學校の結果は良いのであるか、悪いのであるか、未だ何  
れとも分らないのである。果して是は凶作であるか、豊作であ  
るか、疑問であつたのであります。然るに段々二百十日が近づ  
いて來ましたからして尙一層我國民の視線は此の學校の上に注  
がれて居ります。あなた方の両親は勿論の事、此學校に最も深  
い關係のある委員諸君やら賛助員諸氏又日夜あなたの方の薰陶  
に熱心なる教職員方は無論の事、滿天下の人が目を見張り力瘤  
を入れて、あなた方の一舉一動に注意して、如何なる收穫が得  
らるゝかと見て居ります。

斯の如く天下の注目を集めたところの其の結果は如何に人心  
に影響を來すものであるかといふ事は今から思ひ量られます。  
是は社會學の原理から考へても、此の活世界の現狀から察して  
も、決して誤らないことである。社會學の原則は云く、社會に  
於て最多くの人心を感動せしむるものは最深く社會を感化する  
勢力であると申すのであります。又社會の出來事は日々其の原

理を證明して居ります。例へて見れば先日の二十十日、此の二百二十日といふ日が、外の日とさう異つては居りませぬが、全國民の心が其の日に注目されて、或は晴穩であるか、暴風雨であるかと目を見張つて見て居つたのであります。然るに其の二百十日が實に好い天氣であつたのでありますから、其の二百十日の天氣といふものは非常に人心に影響を及ぼしたのであつて、是が爲に今まで沈衰して居つた人氣も急に引直つたといふ結果は確かに現はれたのであります。斯の如く、若し此の日本女子大學校の結果が良好であつたならば、如何に此の社會に感動を與へ、影響を與へるかも知れません。我校の卒業生並に我學校の働きは、大に此の我邦の教育界に貢獻する所があるであらうと思ひます。我々の主張も、我學校の方針も段々社會に實行されるといふやうな結果をも來す事は敢て困難では無からうと思はれるのであります。併し若し之に反しまして、此の學校の結果が不良であつたならば、如何に此の社會の人心を沮喪せしむるか、如何に多くの人の失望を來して、事び我邦の教育界に、大打撃を被らするといふ影響は確かに來ると、私は信ずるのであります。然らば如何に我々の責任は重いことであるか、如何に我々の一舉一動は慎まなければならぬであるか、如何に我々は一生懸命に己の本務に忠實にならなければならぬである

か、斯かる時こそ本當の愛國心、本當の奉公の精神を奮起すべき時であらうと思ふのです。願くば斯かる大切な時期に遭遇いたしまして我々が、斯の如き大切な地位に置かれて居る以上は、唯々口に唱へるだけでは無い、本當に我心の底から私共は犠牲的精神を持つて、總て己の我儘を打捨て、詰らない感情や、宜しからざる欲望を打捨て、總て我身に纏うて居る邪魔になる物を脱ぎ捨て、最身を軽くして最力を養うて、充分の確信と熱心と誠心を以て、本氣に此の期の課業に取掛らなければならぬと私は信じます。あなた方も、此の夏の間充分に御考へになりまして、夫れ等の覺悟は、確かに懷いて居らるゝといふ事を信じます。あなた方は確かに私の言ふ事に御同感であるといふ事を信じます。併し我々は唯、精神上ばかり言つて居つても役に立たぬ。是れからは本當に起つて自ら之を行はなければならぬ。之を悉く實行して行かなければならない。之を實行するに我々の時と力を計つて見ねばなりません。其の力と時が許す所の仕事の分量をも計つて見なければなりません。

### 今學期の收穫を心せよ

第一に我學校の二十十日までには幾日残つて居るか、又二百二十日までにはどれだけの時日があるか、收穫の日は何時であ

るか、勘定をして置かなければなりません。先づ二百十日までにはモウ四ヶ月間もあります。それから二百二十日までには、後と三ヶ月があります。此の残りの二学期間は、今日より見れば随分長い様な考が起らうと思ひますが、併し決して長くはありませぬ。あなた方のする仕事の大部分は二百十日までに、即ち今年の十二月までの間に、出来上らなければならぬ事であらうと思ひます。と云ふものは、此の二百十日までの間は天候が、最充分の成熟をなすに適當して居るのであります。日光は上から非常な熱度を以て照すのである、九十七度八度、時には百度といふ程に熱度が上つて來るのであります。此の熱度が實は肥料やら、水やら、空氣やらを同化するに非常に有力なものであつて大切なものであります。あなた方の熱度は此の學期に於て充分に高まるのであります。あなた方が御銘々の境遇及び周圍から得來する凡ての材料を同化して、あなた方の實力となり、品性となる上に於て、最適當な時期であるのであります。あなた方は二ヶ月間身體に注意して御休みになつた故に、今日は新しき健康力を貯へて居られるのであります。又一ヶ年の間、此の學校に於て、學んだ學理を實地に應用して種々なる新しき經驗を貯へて御出でになつたのであります。又是までは課業に逐はれて時がなかつたが、此の夏休みの二ヶ月の間は、少

しく自分に考へ、自分で工夫すると云ふの餘地が出来ましたからして、自分の將來に就て、我邦の前途に就て深く考へて皆さんの心に、此の學校に今日歸つてからして如何なる考を以て、如何なる方法を以て、又如何なる順序を以て、自分の爲すべき事を成遂げようかといふ所の計畫が出来て居る時であります。時候は段々好くなつて、最勉強するに適當なる時となつて參りましたし、身體の健康は段々増進する所の時期に向つて參りましたのでありますからして、此の十二月までの一期間といふものは、大變に貴重なるものであつて、此の時に於きましてあなた方がなさらねばならぬ所の大部分の仕事が出来上つて仕舞はなければ、モウ一月になつたならば、遅過ぎ、時候に外れて來まして、餘り思ふやうには、出來ないといふ時になつて仕舞ふのであります。故に私はあなた方が充分な決心を以て、今日から學業に取掛つて、一日も無益に消費することの無いやうに、餘程好く順序を御立てになつて、此の一期間を使ひ得る様になられんことを切望するのであります。

### 個人並に團體（校風）の生命の成熟

第二に考へねばならぬ問題は、我々が其の間に爲すべき所の仕事の種類と分量であります。此の期に於てあなた方が是非な

さなければならぬ仕事は、今日から新しく始めるのぢや無い、既に長い間、前から始つて居るのであります。其の既に長い間、前から始つて段々と今成長しつゝある所の仕事を、此の期に於きまして、最好く成熟せしむるのであります。私の心の中にも、其の仕事に就きまして、あなた方に申したいと思ふ事も澤山にあります。又あなた方は既に自分で御考へになつた所の事柄も澤山にあらうと思ひますが、先づ之を大別して考へますならば、詰り二つに歸するのであります。其の一つは決して珍らしい事では無い、今日まで度々言つた事である、度々骨を折つた所の事柄であります。

第一は、我々個人々々の今日迄養ひ來つた此の品性を、此の十二月までに充分に成熟せしむるといふ事であります。第二は、御互に此の學校が始つた日から力を盡しました校風、即ち此の團體の生命を成熟せしむるといふことであります。是は殊に私が来る四月に卒業なさる三年生諸子に向つて申すのであるが、私の今希望する所の事は、あなた方此の學校の全體が、悉く其の希望を以て、其の實行に努めて貰ひたいといふ事を願ふのであります。あなた方はまだ自分達の卒業まではなか／＼長いと思はれるならんも、決して長くは無いのです。其の時になつて決して出来るものでは無いのです。あなた方が立派に卒業

して、此の學校を出るといふ事は、何時の働きにあるかといふと、今日の働きにあります。高等女學校の一年生からして皆今日から御始めにならなければ、あなた方は決して立派なる此の學校の學生たる資格を養ふ事は出來ぬのであります。それで個人々々の品性を成熟せしむるといふ事の意味に就ては大抵御分りであらうと思ひます。又私もそれを充分に御考へになるやうに申したいが、何もかも精しく言ふと時を取りますからして、それは省いて置きまして、先づ個人々々に大に努めねばならぬところの事柄は、三年生の卒業論文であらうと思ひます。此の卒業論文は、此の一期間に於て其の大部分が纏らなければなりません。此の卒業論文を書くといふ事も決して新しい研究を今日から始めるのでは無い。既に此の學校の始まりから研究した所ものを綜合するのであります。あなた方は此の學校に於て、又は他の高位によりて得た所の總ての知識を綜合して、茲に一つの新しい Conclusion 即ち斷案を得るのであります。然るに私の云ふ所の卒業論文とは、あなた方の思想を組立て、綾なす文章に御書きになつたのを指して、私は論文とは申しませぬ。あなた方の力を盡して研究した所の結果が凝つて御銘々の品性となり、長く否、御銘々の生涯の基礎となるべきやうに、自分の身體の上自分の心の上に於て、論文を組立てるので

あります。是は始めより度々申したことであり、又此の學校の主義であつて、御銘々の日夜に努力せられた所であるからして、御銘々の品性の大に進歩したといふことは、我々も認めて居るところであります。まだ是で完成したといふ所へは到らないのであります。まだ既に成熟して仕舞つたといふ事の出来ない點が随分にあるのであります。どうしても此の二百二十日までの間、此の非常な太陽の熱の烈しい間に於いて、あなた方が充分に力を盡して、之を養ひ立て、本當に一つの成熟した、我々の感心し、又自分にも安心するところの品性が陶冶されなければならぬといふことは、私の深く切要を感じて居る點であります。

第二の點は、是も最初から我々の骨を折つた所であります。即ちこの學校の校風及び寮風又はあなたの方の組織された櫻楓會の生命が、此の學期の大に成長發達して一層の成熟を見なければならぬと云ふことであります。此の團體の生命も、矢張り、我々個人の生命のやうに、身體といふものと、それから靈魂といふものとの二つを以て出來て居るのであります。其の身體を好く組立てる、即ち身體の健康を増進するといふ事は、確かに精神に影響するのであります。又精神を發揮するといふことは、大に此の團體の身體に影響を及ぼすものであつて、此の

身體と精神とが、相助け相進んで行かなければ、決して完全なる *Organism* 即ち有機體となつて成長することは出來ないのであります。精神といふことは、度々私が申した所で、あなた方も能く御分りであらうと思ひます、然らば其の團體の身體といふものは何であるか、其の身體とは即ち此の學校の校舎の如きものである、或はあなた方が毎日學ぶ教場の如きものである、又は非學校に必要な *Library* 即ち書籍館或は標本室、或は即ち *Gymnasium* 講堂といふやうな外形の物であります。又は教場の秩序、或は清潔其の他器具といふやうな物も、皆身體に屬する部分であります。又は寮舎の臺所を改良し、器具を改良して、好い有様に仕做すとか、又は土曜會を催すとか、研究會を開くとか、運動會を催すとかいふやうなのは、皆此の團體の身體に屬するものであります。是は身體であるから、是は外形であるから、構はないといふことは出來ない。此の身體を粗末にするところの人は、必ず精神も病氣になる。我々は此の團體の生命を健全に育てようと思ふならば、矢張り此の團體の身體をも氣を附けて育てなければなりません。

私は此の夏あなたの方と御別れをする前に、あなたの方の教場の一つの缺點があるのを見ましたから此の缺點をどうして改善することが出来るか、其の方法に就いて銘々御考へになつて、さ

うして先づ各級が思ひ々に相談をして、此の九月一パイに試みに之を實地に應用して御覽になり、九月の末に於て全級に於て、試みた結果を一つに取り集めてさうして委員を擧げて、それを能く綜合して、之を全體に實行せしむるやうに致したいといふことを申しました。是は小さい事のやうであるが、矢張り此の團體の身體の養生の一つであります。斯の如き養生を怠つたならば、どうしても此の團體の健康といふものは増進しないのであります。

其の他私はあなた方の級に就て、又寮に就て、又は校風に就て、色々まだ完全で無い、どうしても茲に改めなければならぬ點を私は認めて居りますが、どうかあなた方御銘々が自らよく考へて何處に缺點があるかを發見して、又自ら之を如何に改善するかといふことを考へ出して、又相談の上團體が自動的之を實行するといふことを努めなければならぬ。此の九月までには、追々此の團體の色々の缺點を改めなければならぬといふことを、私は御注意を申して置いたのです。是等の點は唯々私共が口に出して居る許りでは無益でありますから、本當に考へて見て之を實行に現さなければどうしても此の團體の生命を丈夫に仕直すといふことは出来ないであります。

### 品性と實力の養成

又此の學校の最初から執り來つた方針、即ち、學問と實際とを遠ざからぬやうに氣を附けるといふ事、又此の學校と活きた社會とを結び附けるといふこと、又あなた方に毎日此の學校が授ける所の知識は常に之を常識に化するといふこと、此の三つの點はです。此の個人の身體の品性を養ふ上に必要なことであるし、又此の學校の團體の身體と此の團體の魂を育て、行く上に於て、缺く可らざる條件であると思ひます。そこで私は此の二年間の經驗に依つて益々是が大切である事を自ら感ずるのであります。又あなた方も此學校の主義方針を段々に御了解になつた事であらうと思ひますが、併しながらあなた方が社會に出でになつてからして、時には迷ふといふやうな事もあるかも知れぬと私は氣遣ふのであります。そこで尙一層あなた方が其の必要を認めて、尙一層此の期に於て實行されて其の進歩の有様が見えるやうに致したいと思ふから、私は尙重ねて少しく其の説明をして置きたいと思ふのであります。

### 世界の教育の傾向

是は獨り私共此の學校の經驗ばかりぢや無い、今日の世界の

最進んだ教育社會の傾向と言つても差支ない、之を唯々抽象的の言葉で以て御話するならば御分り悪いから私は少し例を擧げて具體的に御話をして置きたいと思ひます。今日の英米に於ける最進んだところの教育家は、人間の品性及び實力を養ふ事に重きを置いて居る。其の教育界の傾向といふものに色々ありますが、此の頃外國の新聞やら雜誌に現はれて居るもので、私の觀て以て重なる點と思ふものを擧げて見るならば、三つに歸するのであります。其の一は、今日までの學校は日本は無論のことであるが、西洋に於てもさう云ふ傾きがあつた。教育といふものは學校に於て書物を教へ、或は色々のことの原理を教へさするに在るが如く考へて居つたのであります。所が今日は學校を益々活きたる小世界にするといふ傾向に進んで居るのであります。第二は學校を有機的の團體として、成るべく自動的に活動せしむるといふのであります。第三は學校外に於て、即ち此の活きた所の天地の中に呼吸せしめて、日々の生活に於て學生を陶冶薰育して行くといふことであります。即ち成るべく此の天地に接せしめ實物を見聞せしめて、自ら觀察せしめ、自ら考へさせるといふ所の傾向である。之を説明するに私は二三の其の主義を以て成立つて居る所の學校の事をチョツと御話して參考に供したいと思ひます。

其の一つはイングランドの倫敦から餘り遠くありません、キングハムといふ處がある。そこに一つの女學校があります。又スコットランドのセント、アンドリユーといふ處があります。そこにも同じ様な女學校がある。此の女學校は今私が言つたやうな主義を以て成立つて居るのであつて、此の校長も先生も皆學校の中に這入つて、學生と共に起臥して生活を共にし、總て實際の上に於て感化薰陶して行くといふ主義である。學校で教へるところの原則或は學理或は文學或は宗教といふものが毎日の此の教場では無いのです。起臥をする或は食事をする或は運動をする所の生活の間に、之を實地に應用せしむるといふ所の方針であります。此の學校では生徒は自分の被て居る着物を皆自分で拵へる。毎日三度喰べる食物を皆書生が自分で調理するのであります。洗濯も無論自分でするのであります。其の外に生徒が自分の寮舎で使ふテーブルも、自分の腰を掛ける椅子も、或は着物を掛ける衣紋掛も、或は本箱も、本臺も、石炭を入れる石炭箱も、女生徒が自分で之を拵へるのです。あなた方はさう言ふと、女で連もそんなことは出来まい、大抵木を削つたり何かする丈けで、木は貰つて組立てる丈けであらう。唯釘で喰つける丈けと思ひませうが、さうでは無い。此の學校に一つの大工小屋が出来てありまして、總ての大工の道具が備へ

である。粗造の板やら木がある。それを皆自分で鉋を掛け、自分で鋸で切つて、自分で墨を引いてチャンと自分で計畫をして、それで仕揚げをするのであります。若し勘定が違ふといふと合はないといふ事が起つて来る。正確で無いとチャンと立派に出来ぬといふことがありますから、其の間に於て先生は注意して、生徒が銘々自分の椅子やテーブルを拵へる時に算術を教へ、幾何學を教へ、又正確といふことを教へ、眞面目といふことを教へるのであります。獨りさう云ふ道具を拵へるばかりぢや無い、自分達の喰べる卵のやうなものも皆學校で拵へる。大きな garden がありまして花園も拵へて居る。野菜やら果物を皆女生が拵へるのであります。その作つた畑に行つて野菜を取つて来て、自分で料理を拵へるのであります。それから、又或所には鳥の小屋がありまして、其の學校の女生が皆少くとも一匹づゝの鳥を持つて居る。其の鳥に自分の好きな名を附ける。それから毎日其の鳥を可愛がつて養つてやつて卵を産ませる。是が又非常に面白い運動であるさうであります。さう云ふ風に毎日自分の生活を自分でして、其の間に學理を應用し、算術をするといふやうなことを實地に仕込むのであります。それから又大に團體の生命を育てるのであります。此の學校にある圖書館は學生が拵へたのであります。此の學校の學生は一年に必ず

一冊づゝ書物を此の Library に寄附するさうであります。又卒業生は此の學校を離るゝ時に必ず一冊の書物を残して行くのであります。斯の如くして今立派な Library が出来て居るが、是れ即ち學生自ら拵へた所のものであります。又その向には標本室がある。此の標本室も皆生徒が拵へたので、夏の間に皆方々に散つて行きます時に或は山に入つて卵を集めて来る、又花を集めて来る、海邊へ行つては色々貝殻やら石やらを集めて来ることもある。斯の如く皆氣を附けて、標本を集めて来る。さうして自分等の勉學に必要な標本室を生徒自身が拵へたのであります。獨りそれのみならず其の學校の天文臺も生徒が拵へた。然るに大きな天文鏡を拵へることは金が掛かるから逆も生徒の力には及ばぬのであります。どうしてそれを拵へたかといふと自分の親しい、自分を能く信じて呉れて居る人に志を話して、有力な人に頼むのです、さうして寄附金を少し宛出して貰つて、さうして其の金で天文鏡を拵へたのであります。斯う云ふ風にして生徒を育てたから、此の學校の結果は非常に宜しいさうであります。

又次に面白い學校が此の頃出来るさうであります。其の學校は私其の學校の様に校舎が一つ所に据つて居らぬ。何時も方々へ歩いて行くのであります。地理を教へるには本當に世界を

見て歩くのである。天文学を學び測量する時には、本當に海上を渡つて測量する。動物植物を調べる時には、本當に世界に在る動物植物を行つて目撃するのである。其の學校を名けて *Schoolship* 即ち學校船といふ。其の教場なり校舎といふものは船であります。之を今亞米利加のブアース、アンホイといふ所で製作中であるといふ事であります。それには二十餘人の教授が乗つて、生徒が二百五十名、それから一年に一回宛世界を周遊して四年に四周致しますれば卒業するのであります。夏の間夏休で自分の宅へ歸るのであります。此の學校では決して教育といふものは唯本の上ばかりで出来るものではない。世界を知るには實際世界を歩いて初めて世界が分るといふ主義なのであります。モウ一つ面白い學校がある。その學校の名を *School City* 即ち學校市といふ。是も亞米利加のミスター、ギルソンといふ人が試みたのであります。其の學校をシテ即ち市といふ所以は、學校を一つの市と看做して市制を此の學校の中で行ふといふ主義、即ち學校を一つの市のやうに見立て、學校の學生を皆 *Cityman* 即ち市と看做して建てた學校である。此の學校に立法部があり、行政部があり、司法部がある。巡查もある、警察もある、裁判所もある。其の法律は誰が拵へるか、生徒が協議をして立てるのであります。然るに此等學生は、

我々自分で相談して拵へたものだから犯しても宜いといふ様な人は一人もない、本當の國法を重んずるが如く、之を遵奉して居るさうです。それからそれを支配する者は矢張り生徒が投票を以て選んだ人である。裁判官も選んであり、巡查も選んである。規則を犯す者があれば巡查が罰する、さうすると生徒は本當に恐入つて決してそれに反抗しない、チャンとそれに従うて罰を受けるさうであります。殆ど自治のやうであります。斯の如くして此の學校を支配するに、其の學校の秩序は他の學校に比較して整然として居るといふ事であります。斯の如く今日の傾向は益々學校をして實際と相違からないやうに氣を附けて居る。唯本を讀むばかりぢやいやかない、之を實行せねばいかに、唯々學理を知つて居る丈ぢやいやかない、之を實際生活に應用せねばならない。それは學校に居る間から之をやらなければ決して本當の人間は出来ない、といふ傾向に益々傾いて居るのです。我此の學校に於ても其の方針を執つて、寄宿舎も初めから家族制度を執つたのです。又此の夏の間にあなた方の内二十人ばかりの人々は一種の洋風家族の生活を營んで、御自分の考を實際に試みたのであります。けれども私はまだ、此の上には改良を加へなければならぬ。それがまだ完全の域に進むまでには大にあなた方の骨折を要すると思ひます。前に

申したやうに色々我々の内にある缺點を自ら見出して、自ら改善する方法を編み出して、さうして團體は皆自動的に之を實行し、是が本當に全體の生命となるやうに骨を折つて御置きにならなければ實際に之を應用することは困難であらうと思ふのです。勿論はまだあなた方が大に此の學校の主義方針に注意をして努力せられたけれども、此の九月から始まる學期に於ては殊に此の風が益々成熟して行くやうに皆さんの御盡力を願ひたいと思ふのであります。

前にも申しましたやうに我々は實に雲の如く圍んで居る見物人の前で走つて居る者である。願はくは勇氣を出して、願はくは謹慎を以て、眞面目を以て充分の熱心と確信とを以て、私共の爲すべき事をなし、どうか御互に手を率いて充分此の團體の生命を育てたいと云ふことを私は此の期の始めに當つて、あなた方に切に希望いたします。

〔學報〕第二號・始業式講話 明治三十六年九月

## 教育上の時弊

(一)

日本の今日の教育は、あまりに形式的に、あまりに重箱的

に、一から十まで杓子定規を以て、當て箴めたやうに人間を作らうとして居ります。だから、各人それ／＼、天賦の性能を遺憾なく發達せしめるといふことは出来ないで、ある鑄型に入れられて人間となるのである。これは小學校から始めて各種の學校が皆そうである。そして學問が、机上の空想に馳せて實際と調和しない。是が實に教育上の時弊であると思ひます。

何の學問にしても、藝術にしても、形式的に教室の内であつただけでは、なか／＼實地に活用させることは出来ない。況んや人物を作るといふが如きは、教室内で講義した位では、決して出来ません。殊にその教ふる所の學藝が、實際に甚だ遠くて、教ふる人自身、また之を實地に行はうともしない。例へば農學にしても、之を修むるものは、鋤を持つて自ら栽培に従事しようとはせずして、著書なり言論なりによつて、理論を世に公にしようといふ目的のものが多く、經濟學などでも、實際上の講義よりは理論の方が學生に喜ばれるといふ事である。どうか學問は、空論を避けて今少し實際的たらしめなければなりません。今日の日本は病的で、神經的で、空想にのみ頭を悩まして居ります。こんな事ではいけない。

用ふべき人が無いとの嘆息は、政治界にも、實業界にも、教育界にも、其他何れの社會をも通じての聲であるが、一方を見

れば、人は實に有り餘つて、職業が無い、仕事を得られないと嘆息して居るものが多い。これは何のためであるかといへば、つまり其職業に適當した人が無いためである。才子は澤山あるけれども、眞に實際的の手腕を備へた人はない。殊に、熱心に、眞面目に、責任を以て其職業を務める人は、いづれの社會を通じても實に少い。此決點を補ふのが、今日の教育の主眼である。寝ころんだり、飲んだり食つたりばかりして、一攫千金の利を待つて居るやうな人が多く出來たのは、是までの教育が形式に流れて、實際を顧みなかつた弊であると私は思ひます。

これは獨り私の考へばかりではなく、西洋の最も進んだ教育社會の傾向が皆そこにあるのである。此間の始業式にも生徒に向つて話をしたのですが、私はこの、西洋の教育界が實際的の方面に傾きつゝあるといふ事を、三つほど認めた。其一つは、今日までの學校は——日本は無論の事ですが西洋に於てもさういふ傾きがあつた——教育といふものは、學校で單に文字や理論を教ふるにあるかの如く考へて居たが、今日は學校を活きたる小世界の如きものにするといふ傾向が見える。第二は、學校を有機的の團體として、成るべく自動的に活動せしむるといふ傾向、第三は、學校外即ち此活きた天地の中に呼吸せしめて、日常生活の上に學生を薰陶して行くといふので、即ち成るべく此

天地に接せしめ、實物を見聞せしめて、實際的に研究せしめるといふ傾向である。

## (二)

前に申した主義に依て成立つて居る二三の學校の實際を御話すればよく分りますが、其一つは、インシヤウキヤウ英蘭の倫敦から餘り遠くないバツキングハム女學校、モニー一つは蘇格蘭のセントアンドリュ一の女學校、是等が前に申した第一の主義を以て成立つて居るので、校長も教師も皆學校の中で生徒と共に起臥し、日常生活の實際の上に於て感化薰陶するのです。それで此學校では、學理或は文學宗教のやうなものは日課には無い、食事する、運動する、起臥する、日々の生活が、皆教科目のやうなものである、此學校では、生徒の着て居る衣服は皆自分で拵へる、三度の食事も皆自分で調理する、洗濯も張物も拭掃除も、皆自分でする、其外生徒が寮舎で使ふテーブルも、それに附屬する椅子も、本箱も、本臺も、着物をかける衣紋竹も、石炭を入れる石炭箱も、皆その女の生徒が拵へるのである。机や腰掛を拵へるといふと、或は木を削るだけであらうとか、或は削つてあるものを組立て、釘を打付けるだけだらう位に考へられますけれど、決してさうでない、學校の一隅に大工小屋が出來て居て、

すべて大工道具が備へてある、荒割の板やら丸太の木がある、それを皆女生徒が、自分で鋸切つて、自分で鉋をかけ、寸法を取つて墨を引いて、すべて自分の手を以て仕上げます。それで、若し寸法の計算が違つて居れば適合しない、順序を誤れば出来上らぬ、正確にせねば丈夫でない、手を抜けば立派に仕上げられぬ、といふやうな事があるから、教師は注意して、自分の椅子やテーブルを造る時に、算術を教へ幾何學を教へ、正確といふ事眞面目といふ事、緻密といふ事勤勉といふやうな事まで教へるのである。是はたゞ大工の仕事に就てゝありますが、此外花園ケイデンもあつて、野菜や菓樹を生徒自ら栽培して自ら取り來り、其料理までも自らする。又雞小屋があつて、各生徒少くとも一羽づゝの雞を飼ひ、其雞には各自分の好きな名をつけ、可愛がつて養ひ、卵を生ませる、雛も育てさせる、是がまた非常に面白い運動ださうです。さういふ風に、自分の生活を自分でして、其間に學理を學び數學を應用するといふやうに、すべて實地に仕込むのである。

此學校にある圖書館ライブラリーは、また生徒が拵へたのである、生徒は、一年に必ず何か一冊づゝの書物を此圖書館に寄附し、卒業生は記念として、又何かの書を殘して行く、斯うして今は立派な圖書館が出来て居る。一方には又標本室があります、これも

また生徒が自身に拵へたので、夏の休みなどに皆諸方へ散つて行つた時、或は山に入つて虫を捕へ花を集めて來る、或は海邊へ行つて貝殻や石を拾つて來る、といふ風に、一同が氣を付けて、自分に標本室を拵へたのである。

尚此外、學校の天文臺がある、是も生徒の力に成つたのであるが、併し生徒自身に出金して高價な天文鏡を買ふといふ事は出来ませんから、各自その親しい人、平素自分を信じてくれて居る人に話をして、寄附をしてもらひ、其金を以て立派な天文鏡を据ゑつける事になつたのであります。

次に又他の面白い學校があります。

(三)

● 此頃亞米利加にスクール、シツプ (School ship) といふのが設けられる事になつて居りますが、是は船を以て校舎とする學校であつて、其船即ち校舎を今亞米利加のアンボイといふ所で製作中であります。學校の組織は、教授二十餘人と生徒二百五十名が共に此船に乗り込み、一年に一回づゝ世界を周遊して、到る處實地について地理を教へ、歴史を教へ、動物植物を研究し、本當に世界を見て歩くのである。そして夏になれば亞米利加に歸航して各々自宅に休み、斯うして四年間に世界を四

周すれば卒業となるのであります。設立者はリユテナント、ハローといふ人ですが、斯ういふ考を立つるに至つたのも、つまり今日の教育が實際に遠いのを認め、教育はどうしても本の上、机の上ばかりで出来るものでない、世界を知るには親しく世界を歩いて來なければ分るものでないといふ所から、斯ういふ斬新な方法を取るに至つたのであります。是は前に申した第二の主義の實例ですが、更に第三の實例ともいふべきものが又面白い。

夫は學校の名をスクール、シテ（School city）といつて、亞米利加のミスター、ギルマンといふ人が試みたのであります。シテ（市）即ち學校を一つの獨立した市と見做して、自治的に活動させるのである。それで、この學校の生徒は皆シテーズン（Citizen）即ち市民であつて、市の秩序を維持するためには、立法部があり、行政部があり、司法部がある、警察署もある、裁判所もあります。其法律は誰が作るか、生徒が協議して自ら作るのである、併し自ら作つたものだからとて、一たび決定して法律となつた以上は、之を重んずること實際の國家の法律の如く、一人として違犯するものは無い。萬一犯すものがあれば、之を罰する所の巡查もある、裁判官もある。其等もやはり生徒が投票を以て選んだのであるが、自分達が選んだのだ

からつて決して反抗しない。罰を受けた時は眞に恐縮して服するさうであります。全くの自治體であるが、此學校の秩序は整然として、決して他の學校に譲らない規律が立つて居るさうである。

此通りに、歐米の教育界に於ても、益々學校を實際界に近づけるやうに、寧ろ學校其者を直に實際界の如く形づくつて、之に處する方法を研究するやうな傾向になつて居ります。素より今申したやうな二三の學校の組織を、そのまゝ今日の我國に移して倣ふといふ事は出来ませんが、其精神、即ち實際的人物を作るといふ點は、大に鑑みねばならんことと思ひます。

たゞ／＼本を讀んだばかりじゃ役に立たない、之を實行せねばならぬ、たゞ／＼學理を知つて居るだけじゃ役に立たない、之を實際生活に應用せねばならぬ。學者があり論客があり才子があつて、この實行者、應用者の乏しいのが、今日の教育の弊である、そしてこの時弊を救ふのが、活眼ある教育者の責任であらうと思ひます。

（「婦女新聞」第百七十七、百七十九號）

明治三十六年九月／十月

## 分厘の不足

歳末に際して願れば

今日私が御話する題は高等女学校の數字の問題の御答の様なもので「合計八分九厘尙不足が一分一厘」と云ふ題であります。さう云ふ題であります。其の意味は追々と今私が御話するに随つて皆さんに御分りになるであらうと思ひます。多分御記憶でありませうが、此の期の初めに皆さんに、今年の第二期は此の學校に取つて非常に大切の時期である、此の間に於て此の學校の校風も級風も亦各自の品性も或程度まで成熟せなければならぬ、鞏固にならなければならぬ、是に達せんとするには皆さんの十分の御注意、十分の決心、十分の忍耐力を要することであると云ふことを申しまして、我々は十分の決心を以て此の期に爲すべき仕事に掛つたのであります。ところが早いものでモウ今年の終りになつて、再び今日は暫く御別れすることになりました。果して我々の豫期した如く、此の期に爲すべきことを皆成遂げたであらうと云ふことを考へて見なければなりません。不幸にし

て丁度忙しい時に少し疲勞してあなた方と共に十分の働を遂げることが出来なかつた。然るに學監を始め本校の諸教授教員諸君の御盡力とそれからあなた方皆さんの一致協同に依りまして略々我々の希望した所の仕事を成就することが出来たと云ふことは、私は今日皆さんに對して深く感謝する所であり、又大に喜ぶ所であります。併ししながら大體から云ふと誠に上出来であるが、私は今年の仕事の計算を致して見ますと、今申した合計八分九厘尙不足一分一厘と斯う云ふ答が出るのです。マア八分九厘と云つたならば非常な上出来であつて、其の一分一厘の足らない所は左程心配するに及ばないやうなことであります。が、私は此の一分一厘が大變に心配になる、此の一分一厘を此の學校で今借金と致しますと、是が段々段々利を重ねて遂には大變なる重荷になり到底此の借金は返すことが出来ない様になるのである。此の一分一厘と云ふものは中々軽いものではない。餘程學校に取つては重大なる借金である。是を此の暮にどうしたら宜しいかと云ふことが最今私が頭を悩まして居る問題であります。さうしますと何事に依らずさう完全無缺と云ふ事はないのであるから、そこに一分一厘の缺けがあつた所がさうやかましく云ふ程のことではないのであらう、到底さう十分のことを仕遂げると云ふことは無理なことである、望むべからざる

ことであると御考へになる方があらうと思ふ。殊に我日本人々の心にはさう云ふことがある、八分九厘迄は行くが後の一分一厘と云ふことがどうしても行かない、物を考へても算盤をしても正確でない。其の一分一厘が違ふのでこれが爲に全體が壞れて来る。全體に破傷を來す、兎角是は極く微かなものであるから構はないと云ふ考がある。私は決して望むべからざる完全無缺を望むのではない、我々の力の及ぶ限り今年是非そこまで行かねばならぬ所の計算の上に於てどうしても一分一厘と云ふ缺損がある、それであなた方の反省を請ふのである。そこで皆さんの御考の在る所又此の期の始めに於て御話した以來十分に力を致した積りである。例へば今年の運動會の如き注意周到も十分又熱心も十分活動も十分成功も十分であつたと御考へであらう、無論そこには十分でない缺點もありましたけれども私はそれを言ふのではない。それは良かった是は先づ我々の力のあるだけのことをしたと言つて差支ないと思ふ。それで總ての新聞でも此の運動會は成功と云ふ報告をして居る。今日出た學報に依ると中々此の運動會は能く出來た、此の夏以來色々研究なされた寮舎の如きものの報告も餘程完全無缺である。又此の間或新聞記者が來ましてあなた方の寮舎の生活を書いて社會に紹介して居る、隨分能く行届いて居るやうで一分一厘の缺損も

有るやうに見えないのである。併し私は斯う云ふ風に我々が觀測をする時又人が褒めて呉れる時が最我々に取ては危険な時です。人が攻撃をし忠告をして呉れる時、或は叱られる時は宜しいが、褒められる時は我々の最あぶない時、油斷をし易い時である。それであなた方は十分成功した御考でありませうが、尙そこに一分一厘の缺損があると云ふことを申したい、多くの人はあなた方の長所を見て非常に褒めた、私はあなた方の缺點を茲に並べてあなた方の反省を請ひたい、是は尤今年は平年に比較して良い收穫があつたから、私は尙更其の足らぬ所を申す必要があると考へるのです。

#### 一分一厘の不注意が全部を破壊す

色々の點から見なければならぬが、先づ私は極く手近いあなた方の極く目に着き易い極く形に現はれて居る所からチヨツと御注意致したい。それで第一に私が數ふべき所はあなた方の注意と云ふことです。今申しました様に運動會の時には實に注意周到と云ふやうに見える。其の後あなた方が學校の爲に又個人の爲に御盡しになつたあとを見ると中々注意が能く行届いて居る。併しながら尙そこに八分九厘迄は注意が行届いて居るが一分一厘といふ所が缺けて居る。是は大變に大事なことです。今

私が短刀直入にあなた方の缺點を擧げるとは言悪いかも知れぬから、少し迂廻をして、あなた方の外の人の注意に付いて申してそれからあなた方のことに移つたら好く心に這入るかと思ふ。

此の學校に私の宅から麻生學監の所と通じて事務所へ電話が掛つて居ります。それから寮々には皆ベルが出来てゐる。巡查の所にも出来てゐる。こちらからも向ふからも通ずる様になつて居る。是は吉村鐵之助と云ふ方が此の學校に寄附されたので、其の金は凡そ三百五十圓ばかり掛つて居る。然るに此の電話又此のベルが暫くは効力を持つて居たが、暫くたつと云ふと一向役に立たない、三百五十圓の金が活きて働かない、幾度も直して貰つたけれ共本當のものにならない。是は申す迄もない、八分九厘までは宜かつたけれどもそこに一分一厘の勘定の間違がある。何故間違があるかと云ふと其の職工の不注意である。もう一つと云ふ所まで考へてない。其の一分一厘の注意の缺けて居る爲に全部の機關が少しも役に立たない。又私の部屋に來て居る瓦斯燈は一向役に立たない。三度ばかり拵へ直したけれどもまだ役に立たない。極く僅な所の注意が届かない、職工の仕方が悪い、綿密でないからです。斯う云ふことは小さいことであるが、大阪の舍密會社は凡そ三百萬圓ばかり資本を掛

けて拵へた會社です。ところが建物は出來たが設計が違つて三百萬圓は全く破産して仕舞つた。どうして斯くの如き結果を來したかと云ふと其の設計を爲した技師の注意が一分一厘缺けて居つたが爲である。斯くの如き例は日本に幾らもあるが注意が缺けて居るが爲日本の工業は發達しない。是は餘所の事であるが、あなた方の間にもある。私は此の間から二三度教場を廻つて歩きました。又あなた方の知らぬ間に寮舎の裏等を廻つたが、此の時は非常に掃除なども行き届いて居り中々注意が行届いて居ると感心しましたが、又或時にはどうもさうイカない、或部屋は中々綺麗になつて居るが或部屋は又中に土が上つて居り或はそこ等に綿屑を散して居る所もあつた。或は教場の隅の方に箱が重ねてあり或はこちらの方には汚ない雑巾が載せてあると云ふ様な風もあつた。あなた方は斯う云ふ事に就ては能く考へて見て悪い所を見出して自動的の之を改むる様に御注意を與へて置いた。是は前より比較すれば良くなつたけれ共まだまどうもさう云ふ缺點が見える、特に器械に就ての注意が届かぬ傾がある。さう云ふ私自身も此の缺點が多いのでありまして外國へ行つて大分直した積りであるがまた中々直らぬ。子供の時から養つた缺點は直り悪い。私が外國へ行つて第一に注意されたのは時計です。あちらの人はどれだけ時計を注意する

かと云ふ事を御話したらあなた方は驚くでせう。それから又ペ  
ンです。フアウンテンペンは等は一つ買ひますには十圓もす  
る。廉いのも五圓六圓です。是等に能く注意が行届かぬが西  
洋の人々は實に細かく注意し之を永く保存するが、我國にては  
實に注意が届かぬ。あなた方自轉車を見ても時に依てはガツガ  
ツ云ふのに乗つて居る。空氣が脱けて居るのを構はず乗廻して  
居る。又鋌が取れて居るのに乗つて居る。どうも機械を粗末に  
する。百圓位の機械は注意すると不注意と云ふのでは二倍三倍  
も持ちが違ふのである。機械は是から段々出来るが、其の機械  
に就ての注意と云ふことが非常に缺けて居る。例へば水を引い  
て居る。時に依ると其の水口から水が出て居ることがある。是  
は餘り見ませぬが、私の宅などには時にさう云ふことがある。  
あちらでは燈火を點ける時にすぐにつく様になつて居り、又直  
に消える様になつて居る。一分の間でも無駄なものをつけて置  
くと一錢の損がたつ。毎日二百人の寮舎の人が一人が一錢づつ  
損したならばどれだけの者になるか、瓦斯を引きましても其の  
寮舎の人で注意が足らぬと斯の如き損失がある。是はどうも改  
めませぬと私共進歩する所の國民になれない。經濟的の國民に  
なれない。科學應用の國民になれない。外國では子供の時から  
さう云ふ所の注意は親が十分に與へますから、機械を損じない

やうに、又いけない所は能く直して行ふと云ふ向上心が非常に  
發達して居る。あちらの人のモットーとする所の言葉に "Be better tomorrow" と云ふがある。之を外の言葉で云ふと  
アッチーヴメントと云ふ。今日の文明は其の向上の精神で出来  
たのである。國民一般は決してじつとしては居られない。明日  
は今日よりも能くなる、いつ迄も能くなつて行かうと云ふ精神  
がある。此の向上心が燃えて居ればどうしても我々は細かいも  
のに注意せざるを得ないのであります。それで私はあなた方は  
非常に注意力が盛んになり、又學校の爲を思うて骨を惜まずに  
御働きになることも感心して居りますけれども、其の程度がま  
だ八分九厘まで行つて後の一分一厘と云ふ所が缺けてゐる。こ  
の一分一厘のくるひがある爲に全體に大影響を被らしめるので  
ある。もう一つと云ふ所へ注意を注いでいかなければならぬと  
云ふことを私は感ずるのであります。

其の次に言ふべき事は思慮は充分出来て來ました。けれども  
まだそこに一分一厘の差がある。是に就ては前からあなた方に  
申さねばならぬと思うて居りましたが折がない。今日も大分時  
を取りましたから十分御話をする事は出来ないが、どうもマダ  
あなた方の思慮の足らない所がある。たとへば此の冬の御休に  
はどこそこへ出して呉れと云ふことを能く私の宅へ申してお出

でなる方があります。又寮舎に居つては少し經濟の都合があるから出して貰ひたいと云ふやうな御相談がある。之を或は尤らしく思ふ人がある。斯う云ふ事柄を私は聞く度にあなた方の思慮がまだ足りないと思ふことを始終感じます。其の一分足らぬ所に非常にあなた方の爲に危険なることが含んで居る。あなた方はこれから方々に御歸りになる。又旅行をなさる。色々なことをお遊びになる。又色々お讀みになる。それに就ても少しく危険なる事がある。今日お別れする前に當つて少しくあなたの方に其の點を御話して置きたいと思ふが時がないから申しませぬが、併しながら凡ての事に就てもう少し能く考へ時代を考へ社會を考へ自分を考へ能く深く物事を考へて見て其の似て非なる眞理、似て非なる道理に理窟を付けて危きに近寄らぬやうになさる必要があると考へるのであります。

第三には本期に於て我々の希望した校風とか寮風とか又各自の品格が鞏固に形造られて十分に今後の暴風雨に堪へ得る所の力を養ひ得たや否やと云ふこと、是を私は考へて見ますに、どうも私は今の一分一厘と云ふところが足りないと思ふ懸念がある感がある。是は只我々の感じであつて實際如何であるかと云ふことは其の判断が仕悪い。私は之に就いて皆さんに自分の品性を省みて御覽になることを希望する。若しあなた方の品性が

十分に出来上つたならば此の學校の校風が髓に出来上つて居ると云つても餘り間違はあるまいと思ひます。あなた方は此の期に於きまして澤山に新しい知識をお積みになつた。色々な演説をお聞きになつた。又色々な良い格言をお聞きになつた。さうしてあなた方の心は色々に動いた。筆記帳の中にはさう云ふ所のあなた方の品性を養ふべき材料は充ち満ちて居る。決して食料が足らなかつたのではない。併しながら此の期に於てノートブックの中に記されたあなた方の感じ或はあなた方の新知識或は格言は皆悉くあなた方の心の働に由つて一つに統一されてあなた方の主義を作りあなた方の動かすべからざる一つの説となつて居るや否やと云ふことを省みて貰ひたい。是が出来なかつたならば只幾ら知識を澤山にノートブックに書いて見ましても幾ら頭の中に澤山な感じやら澤山な記憶を有つて居つても何んの役にも立たない。恰も砂の上に書いた文字の如きものである。私は此の夏鎌倉に行きまして毎朝海岸を運動して居りましたが、波が打つてくる、波が引きますと其の跡へ杖を持つて字を書く、自分の足跡もつく、暫くすると潮がザツとやつて來ます。さうして其の潮が再びひいた跡を見ると、先きに書いて置いた文字も足跡も全く消えて仕舞つて居る。若しもあなた方が砂の如き心を持つて先生方に就て其の語る所を聞き、又色々な

### 鞏固なる品性の養成

書物を讀むで自分の頭のうちに一つの説が出来るとしても、それは砂の上の文字であつて、其の次の波が来たならば直に跡方もなく消えて仕舞ふ如く何にも跡に残らない。是が我品性である、是が我意見であると云ふことは少しも残つて居らない。丁度斯の如き人の頭は鏡のやうなもので、今私があなたの鏡の前で御話をすると、私の言ふことがあなたの鏡に寫るのである。けれど私と云ふ人間が除けば其の影も直に無くなるのである。

さうして又次の先生が来てあなた方の前で御話をすると、其の影が又あなた方の鏡に映るのである。けれ共暫くの間映つて居るが其の人が除けばもう何にもなくなるのである。斯くの如き薄弱な人間は境遇に制せられて始終變化して居り、少しも自分の中に一も形造られた考がない。かういふ人は決して其の品性が成熟することは出来ない。それでは幾ら澤山に物を學んでも幾ら演説を聞いて心に感動しても何の役にも立たない。斯の如き海岸の砂の如く、少しも根底のない品性、斯の如き幼稚なものには此の中には一人もあるまいと思ふが、それにもまだ一分一厘と云ふ所の不足がありはしないか。是があれば誠にあぶないです。學校にお出でになる間は宜しいけれども學校を出て學校と全く反する所の社會にお出になつたならば、あなた方が此の學校で有つて居ることはちぎりに消滅して仕舞ふのである。

然らば私の申す所の波や風に壞れぬ所の品格を備へて段々に是が成長して行く如き品格になると云ふことは如何なる程度を指して云ふのであるか、如何なる有様を指して云ふのであるか、是は私が茲に一の手本を掲げてお目に掛けたならば一番あなた方の心にかかるであらふと思ふ。

此の間申したやうに教育の主眼はそこにある。斯の如き品性を作ることにある。外國にても教育の目的は矢張りそこにある。彼の貧しい百姓の子供から遂に立身をして亞米利加の大統領となつたガーフィールドがどう言ふことを言つて居るか「私は私に就て他の人が何んと言はうが又私に就て他の人が何んと考へて居らうが私の少しも意とする所でない。私には何とも感じはないのである。然し只一人私の重んずる人がある。其の人が私に就て考へる時の説は非常に私は之を意とするのである。それは誰れであるか、即ちゼームスガーフィールドである」詰り自分の考、自分の今して居ることが宜いか悪いか、自分は果して値打があるか値打がないか、賤しい者であるか高尚な者であるか、人が何と言はふが少しも吾には関係がない。一も吾は重んじない。只自分の心が言ふ所のことは最尊いのである。他の

人と私は離れるけれども、朝起きる時も晩寝る時も外に出る時も家に這入る時も何時でも吾に離れることはない。其の離れぬ者は誰であるか、ゼームスガーフィールドである。此のゼームスガーフィールドが吾にて就考へるところの此の説は我々が最重きを置く所のものである。是が悪いと言へば本當に悪いので、是が良いと言へば本當に良いのである。是が責めるならば實に怖いのである。是でなければならぬ。あなた方には自分の心に拵へた主義があり、自分に確信があり、又自分に活きた良心があつて是があなた方を支配しあなた方の進退を決する。あなた方が學校に居る時も是から學校をお出になつた時も何處へ行つても此の保護者がついて居るならば、決して世の境遇に制せられることはない。假令生命を取られるやうな危険の場合に遭遇しても矢張りあなた方の心を保護して居るのである。只人の説に依つて動き、人のすることに雷同して動いて居る様な人であるならば實に恃むに足らないのである。斯の如き所の鞏固なる品性が固つたか固まらないか、個人に於て此の品性が固つたならば必ずあなた方が此の學校に於てお拵へになる校風が固つて居るので、斯の如き強い所の煉瓦を以てセメントの如き粘着力を以てひつ付けた所の校風と云ふものは永久に如何なる波風に打たれても崩れることはない。實に安全な建築である。さて吾々

は今年の間到我々の豫期した通り各々の品性が固つたかどうか我々の校風は成熟したかどうか、そこにまだ一分一厘といふ所の足らぬ所がありはしないかと云ふことを私は皆様に御考へを願ひたいのである。

もう一つの事實があります。若し此の一分一厘の不足があるならば、もう一つと云ふ所にあなた方の満足の出来ない所があるならば、もう一つあなた方の學校に組織した機關が運轉の活潑をかく所があるならば、是はあなた方の熱心がまだ足りないのである。私は此の期に於てはどうしても熱度が百度まで昇る時があると言ひました。その百度迄昇る熱があるのであるが、其の熱度がどうしてもある程度まで達しなかつたので、ある日外私は大和の土倉庄三郎君の處へ訪問に行つたことがある。それで是は葛と云ふ所迄汽車に乗りそれから降りて山の中へ這入るのでありますが、歸途に又葛から汽車に乗りました。ところが時間が来ても汽車が出ない、それから驛長に行つて、何故に此の汽車が出ないか水が足らぬのであるか、機械が損じたのであるかと言ひました。イヤ機械も損じて居ない。水も釜の中に一杯ある、けれ共石炭が無くなつた、洪水の爲に石炭に故障がありましてそれで薪を焚いて居るからして熱がもう少しと云ふ所でどうも足らない。それで此の機關が動かぬと言つて居

る、是は好い喻である。あなた方は十分な力があり経験と知識と云ふ十分の水はあなた方の頭の中に這入つて居り、又機關は完全になつて居るであらうと思ふ。けれ共其の機關が動かぬのは何であるかと云ふと矢張り熱が足りない。熱心が足りない。其の一分一厘、たつた一分一厘の足りない爲に此の機關は動かぬのであります。そこで私は皆さんの品性を養ふ上に於て又此の校風を作る上に於て此のもう一つと云ふ所の缺けて居るのは即ち熱度が其の程度までまだ達しないからである。是を達しない様に妨げるものが二つある。

### 恐るべき二ツの敵

其の一つは何んであるか、勢力の放散です。修養と云ふことも又校風を作ると云ふことも八釜しくはいふが八釜しくいふだけではいけない、又自分が知つて居ることは直様他に分らせないと云ふやうな希望を生ずることもいけない。これ皆勢力を放散し熱度を放散して仕舞ふのである。是もあの我々が乗つた汽車が好き教を示して居る。車の動かぬ時には、時々ひどい音がする。ごう／＼云ふ音がする。或はブーブー云ふ音がする。其の音のする時には其の蒸氣の力や熱は放散して居る。併し其の熱が拵へた勢力が機關の中に這入つて運轉を始めて來ると云ふ

と少しも音はしない。少しも混雜はなくなつて仕舞ふのである。又熱があると云つて氣ちがひの様で騒いで居つて混雜がある間には其の力が十分に一とところに集中しない、そこから放散して出て居るのである。力が減つて居るのである。此の放散する爲にどうしても熱度が或程度まで達しない、我々は餘程氣をつけて慎重に考へ銘々に省みて靜かにしなければうろたへたり騒いだり、空騒をしましたならば、幾ら向上心があつても人に現はれん事を望んだりしたならば我々の中に蓄へて置く力は放散して仕舞つてどうしても全體の機關を動かすに足らない。出来ない。

もう一つ力を減少することがある。即ち冷たい水を掛けることである。其の熱をひやす所の誘惑があるのです。少し熱しかけると云ふと直きに外の方から冷して仕舞ふからしてどうしても一定の程度まで熱度が高まらない。

斯う云ふ所の大敵があるから之を防がぬ以上はどうしても我々が此の機關を運轉し我々の品性を陶冶して行くに必要な熱度を保つことは出来ない、此の熱度が一分一厘不足して居れば此の全體の仕事は決して成熟しないのである。何時迄も何時迄も繰返して居るけれ共決して其の目的とする處まで達することは出来ない。それで一方には此の二大敵を防ぎ一方には我々が

益々此の力を集中しなければならぬ其の集中する所の手段は外ではない、皆さんが御承知の通り我々が是は爲すべきことと信じたら、是が眞理であると確信したならば自分の全力を盡して之をなすのである。英語では強い意志 (All our might) といふことである。第二には私共此の熱を養ふ所の養ひを充分に取るのであります。是はあなた方が此の學校に御這入りになる時よりあなた方の熱を養ふ所の石炭を燃やして力を放散しない様に貯へさへなされたならば必ず必要な熱度は出て来るのである。

第三は今申した所の我々を冷す敵を防ぐのである。それはどうしたらよいかと云ふと眞に熱心なる人、學校の爲を思つて熱心なる人とくみするのです。悪人とくみするとか冷淡な人とくみする人は直に冷却してしまふ、其の心の熱が直ぐに取去られて仕舞ふのであつて、決して我々に必要な熱度に達することは出来ない。あなた方は眞に熱心な人とくみして御出になるならば必ずあなた方の熱度は昂まるのである。

終りに一つ申して置きたいのは忍耐力です。是も言ふと長い時が無いから一口申して置きます。今八分九厘まで来たが一分一厘が残つて居る。何故残つて居るかといふに忍耐力が足りない、まだここに一週間ばかりも今年の日數が残つて居るが、私は此の間に於てあなた方が忍耐力をもう一分一厘御出しにな

つて、どうしても此の年中にせねばならぬ、其の缺けて居るものを借金せずに本當に拂うて置いてさうして新年を迎へる様にしたいと思ふのです。此の忍耐といふことは口で言ふことは易しいが、本當にやることは六つかしい、私共何事をするにも八分九厘迄は忍耐が出来ますが、此の八分九厘といふ所へ来た時には非常な困難がある。連も耐へ切れない、もう八方塞りになつてどちらを向いても自分の行く道がない様になつて仕舞ふ、もう此の處で屈するより仕方が無い。此處で倒れるより仕方が無い、此處で止めるより外道が無い。けれ共是は偽である。もう一分一厘忍んだならば成功といふ所に近づいた時に於て非常な困難が来るのです。此處で一分一厘忍んだならば直様夜が明けて来るのです。直様道が開けてくる。あなた方の成功の戸は開けてくる。けれ共あなた方の忍耐力が大に缺乏するか又はそこに一分一厘といふ所が缺けて居る處がある。これが大事であると思ふのです。けれ共此の學校の六つかしい所は過ぎて来た。餘程成功に近づいた。今が大事な所である。どうか我々が協力して、もう一つといふ所の力を出して今年の間缺けて居る所を必ず補つて行き、然らざれば我は去らないといふ決心を持つて頂きたい。皆さんが御歸りになつてからでも忍耐力が一分一厘足りなければあなた方のなされる全體が壞れて仕舞ふので

す。どうか此の忍耐力を充分にして一分一厘の欠損がないやうに仕遂げて貰ひたいといふことを私は希望致します。どうも私の感じでは本年の働きを勘定すると八分九厘といふ合計が出るがどうも未だ一分一厘といふ欠損を生ずるやうである。之を借金して學校に残して置くといふことはいかない。どうしても我々が奮發して此の借金を拂うてさうして又新しい年を迎へたいといふことを切望致します。

〔學報〕第三號・終業式講話 明治三十六年十二月  
第一回卒業生に告ぐ

來賓諸君、父兄保證人諸君、今茲に千古未聞の一大時機に際しまして本校第一回卒業式に臨み卒業生に向ひ、一言の告辭を述べる光榮を得ますは私の欣喜措く能はざる所であります。卒業生諸子、諸子は此の多事多端にして前途多望なる千載一遇の好時機、就中最女子の手腕を要するの時代に御生れになつて本校に入學なされて本校の物領娘となられて此の過る三年間あなた方の妹分の世話を焼き又は親たる教師の手傳をなしなかなか骨の折れることばかりあなた方に背負はせたいにも拘らず自奮自修、自治自制の精神を以て切磋琢磨の功を積み本校永久の基

礎たる校風や寮風を開拓され、又先きの御報告にもあつた櫻楓會を組織して其の根底を培養し其の櫻楓會の事業として種々の新事業に着手し今日に至つて本校の親石たるの地歩を占めて此の榮典に列せらるゝを得るは私共一同の深く喜びとする所であります。私は一年前より今日に至るまで度々あなた方の卒業後の心得に就ては御話を致しました。今日此の席で改めてあなた方に告辭をする必要は無いやうなものであります。併し斯う云ふ際に御話をするには能く人の脳髓に浸込み永く記憶に存するものでありますから尙一言私の希望をあなた方に述べて置きたいと思ふのです。

私はあなた方に三年の間御養ひになつた確信があることを信じます。是より家庭、社會、國家の焦眉の急とも云ふべき我邦の種々の要求に應じ、御銘々の天職を盡さんと決心し且必ず之を貫くといふ御決心が固まつて居るといふことを信じて疑ひませぬが、尙私は御別れに臨みまして此の決心を永久に持續なすつて、此處五十年の間に必ず此の希望を達して貰ひたいといふ熱望よりいたしました、あなた方に種々あるところの責任の中で、殊に女子大學卒業生としての特別の責任に付て一言申して置きたいと考へるのであります。皆さん能く熟知なされる通り本校は女子を人として婦人として國民として教育するの方針を

取り先づ第一に家政、國文、英文の三學部を開きました。將來に於て段々他の各部を開始する積りでありますが、要する所我國家則ち此の

### 新興國の新必要に應せんが爲

であります。此の新興國に於ては或外人の言葉を借りて申しましたれば、新西洋、極東に於ける、新西洋の新需要に應せんが爲であります。此の頃私の手に這入りました外國の新聞に *The new west of the far east* といふ題を掲げて一の議論が載つて居りました。其の趣意は詰り我日本を西洋の列に加へ、是迄西洋の籍に在つた露西亞を東洋の列に加へたのであります。其の議論を起すに當つて先づ東洋といふものと西洋といふものゝ定義を付して東洋とは老朽、衰頽、退歩を代表するものとし、西洋とは進歩、快活、樂天、如何なる障礙に遭ふも決して撓まざるの能力、躬を殺して仁を成すの勇氣、大事に臨んで驚かさざるの氣魂を意味するものとしまして、此標準に照す時は極東に於ける日本は、過去五十年間の進歩發達に依つて西洋といふ階級に加へらるべきものとなり、之に反して露西亞は老朽、衰頽、退歩を代表する東洋列に加はるより他に扱ひ方が無いと斷言したのであります。成程我邦の政治、陸海軍、商工業、教育制

度、斯の如き國家の機關を観察する時は、我邦は既に此の五十年間の働きに依つて文明の域に進んだといふことは誰も異存はあるまいと思ふ。然しながら尙細かに且深く我社會の眞相を観察する時は遺憾ながら未だ弱點と見做すべき處が多々ある。例へば我邦の財政の如き、道德の如き、未だ基礎は鞏固なりと言ふことは出来ませぬ。斯の如くこの弱點は諸の不平均、不調和、不完全より來るものであります。然るに我邦の文明は外部の半面には及びましたが、他の半面には依然として五十年昔の狀態とは變らないものがある。其の半面とは即ち我社會の裏面である。深く土中に埋没して居る盤根である。詳しく申せば婦人其の者と婦人の領分たり又社會の基たり細片たる家庭であります。遺憾ながら此の裏面は未だ眠つて居る。寐睡して居る。暗黒の中に戸を閉ぢて居る状態を未だ脱することが出来ない。過去五十年間におきまして、我邦の半面は既に男子の努力に依つて第一の維新を成就いたしました。今後五十年間に於て此の内部の半面を女子の手に依つて開拓せざる可らざる時機に到來して居ると思ひます。私は之は我邦第二の維新と存じて居るのです。此の第二の維新は、人々が纖弱きと思ひ爲すなきと思ふあなた方女性の手、殊に將來本校の卒業生の手に依つて着手されなければならぬと私は信ずるのであります。

然るに此の維新とか革命とか申すものはなかなか困難なものであります。殊に婦人に對する偏見、家庭の陋習を改めるといふことは難事中的の難事であります。國家の陸海軍の制度或は教育制度を改むるの此ではありませんね。併しながら決して望みなきでは無い。人間の歴史を考へて見れば誠に遅々として居りますが、段々と進化して居るに相違ない。又此の進化が人間の進歩發達を助けて居るといふことは確かなる證據を幾らも擧げて之を證することが出来ると思ひます。近くは我々の住所の如きも穴居は變つてテントとなり、テントは變つて木小屋の如きものとなり、木小屋は變つて材木の家屋となり、材木家屋は變つて鍊瓦石造の大夏高樓となつて居る。又其の中に用ひて居る器具の如きものも極めて簡單にして不便極まるものより、極めて複雑に極めて便利なる所に變つて居るのであります。此の變りが人間の經濟に餘裕を生じ、其の餘裕は我々の勢力に餘裕を與へ、其の餘裕の勢力は我々に新たな品性を加へ、其の品性の力は段々社會國家を進めて來るといふ順序に進歩發達をして居る。其の跡は何れの國の歴史にも見ることが出来るのであります。故にあなた方教育を受けられた女子が今後大に忍耐し大に勉強なさつて研究を續け又學理を眞に此の我邦の家庭の中に應用することが出来ましたならば、ざつと積つて見ても確

かに今日までの三分の一の時と力を用ひて、是までの物に二倍する所の結果を得るといふことは難きでは無い。又其の結果といたしまして我々が住ふ所の家庭が世界中最も愉快なる最便利なる場所と變じましたならば、是まで男子が浪費する所の放蕩費並に女子が消費する贅澤費は悉く之を省いて各家庭の財源を富裕にすることを得ます、若し家庭の財源を富裕にすることが出来ならば、我國家の財源を堀抜井戸の如く、汲めども盡きない誠に鞏固なる水源とすることは敢て難きことではありませぬ。又高等教育を受けられた女子の働きの結果として、我邦の家庭の關係が進化したならば、即ち夫婦の關係が變り、親子の關係が改まり、家庭の思想感情が高まつたならば我邦の道德は言はずして其の水源が清まつて來るのであります。又あなた方の努力に依つて、女子の心と身體に此の新世紀に必要な新品性を加へ、之を子孫に遺傳することを得たならば、始めて今日我々の希望して居る所の本當の教育といふものが行はれるのであります。故に此の家庭の改良、國民の體格の改良、且品性の革新、遺傳の改良を行ふはあなた方の特別なる責任の重なるものであらうと私は信するのであります。

此の確信が我國家に取つて最大切なるものであるといふことは、識者の疾くから氣附いて居ることでありまして、過去五十

年間我邦の政治家に依つて教育家に依つて宗教家に依つて常に唱道されました。然るに未だ其の實現せらるゝを見ないのであります。是は其の任に當るべき我邦の婦人が眠つて居つたこと、其の婦人の領分たる我國の社會の半面が此の世界の文明の光に接觸すること能はざりしことに原因することであらうと思ふのであります。今日までどうか斯うか是までの有様で濟んで参りました<sup>(が)</sup>、今日我邦が此の世界の活劇に加はつた以上は一日も之を黙過することは出来ぬと思ふのであります。

次に起る問題は如何にせば之を我邦の社會に實現することを得るや、私は此の働きを分つて四種に分類致します。ごく簡単に申したいと思ふのでありますが、

**第一は我々の四圍の境遇を自分の品性に適合せしむる働き**

即ち我々の努力に依つて、我々の奮闘に依つて我々の經驗に依つて天然を征服する。此の言葉は大變大きい言葉であります。が、細かく人間の住ふ所の家内の事を考へて見ても、又は人類の住居である世界の有様を考へて見ましても人間の働きに依つて確かに我々の四圍の境遇を變ずることが出来るのである。四圍の境遇をして、我品性に適合せしむるやうに變へて行くことが出来るのであります。是は具體的に皆さんに御話をしたこと

があるから私の言ふ意味は御分りになるであらうと思ひますが、我邦目下青年の缺點は此の事に氣附かないのであります。

唯學識があり、理想が高ければ、感情が清ければ、我々の四圍の境遇は選ぶところで無い、斯の如きことに區々として居る事は實に我々の恥づべき事である、と斯の如き傾向を呈しておりますからして、今日多くの男女學生の理想といふものは空想に流れて仕舞つて居る。彼等の感情といふものは病的の状態に陥つて居る。徒らに思ひ、徒らに悲み、少しも出来ざる事、實行せざる事を計畫して居るのであります。自分が理想とする所を自分の努力に依つて奮闘に依つて之を實現するの勇氣を失つて居るのである。私の意味は今後あなた方の家庭の状態をも根底から改良して行かねばならぬといふ必要があるのである。唯あなた方の理想ばかりが清まり、唯あなた方の學問ばかりが進みましても、あなた方の住ふ所の家庭の境遇が之に伴はぬ時は、到底あなた方の理想も向上心も永續することは出来ない、必ず中途にして廢絶して仕舞ふに違ひないと思ふのであります。

**第二は自己をして己の四圍の境遇に適合せしむる**

のである。是は前の働きと違ひまして此の四圍の境遇に服従するのである。四圍の境遇に支配されるのである。四圍の境遇の

感化を受けるのである。一言を以て言へば我等の我儘氣儘を征服して此の天然自然の法則に適合せしむる所の習慣を養ふのである。我々は知力に依つて努力に依つて此の宇宙を變じて己の意に服従せしむるの力を有して居りますけれども、又一方には如何にしても天然に勝つ能はざる所があります。之を例へて見れば晝夜の別の如きは如何にしても人間の力に依つて之を廢することは出来ないから、我々は晝夜の區別に服従して晝は起きて働き夜は寝て休むといふことは我々の健康に取つても、缺く可らざるものである。又四季の變化の如きも、決して人間の自由人間の働きて之を滅すことは出来ないものでありますから、此の四季の變化に應じて我性を換へ、四季の變化の感化を受けて我々の感情を養ふ時は之に依つて我々の品性を進めて行くことが出来るものである。斯の如く我々人類の生活は如何にしても此の天然に打勝ち難いから餘儀なく此の四圍の境遇に服従せねばならぬといふことがあります。又此の天地の理法に服従するといふことは我々の品性に取つて身體に缺く可らざるものであります。

### 第三は活動社會を己に適合せしむ

是は我々の感化力を以て他人を我に同化して行くのであります。

す。他人の性情を我性情に適合せしむる働き、家風及び社會の風をして我品性に適合せしめ感化を及ぼす感化力、我品性の力に依つて社會の風を感化して行く所の働きであります。

### 第四は自分を家庭生活に適合して行く所の働き

即ち人の感化を受ける人に事へる我々の適合性を養うて行くのであります。最此の社會國家に適當する所の性情を養ふ所の働きであります。之を約めて申せば此の改革をするには己の適合性を養ふ事と、此の品性の力に由つて我々の四圍の境遇、我々の生活する社會宇宙を我品性に適合するやうに改造する、此の二つの働きであります。此の適合の法が宜しきを得ましたならば、始めて國の進歩、國の平和、國の安寧を來すことが出来るのであります。此の四要素の中四圍の境遇を己に適合せしむる事は、我々の「知識」「經驗」「理想」「努力」「奮闘」に依つて出来、我々の適合性を養ふことは、「服従」「從順」といふことに依つて出来るのであります。故に私があなた方に希望致すのは、第一今後も此の學校で御養ひになつた知識を進め、理想を養うて向上心を尊はるゝことなく限りなく進み行くといふ勢を養ふこと、次は飽くまで服従する、萬事萬物萬人に己を適合せしむるといふ働きを持続けるといふことであると思ふので

あります。然るに兎角教育ある者、才知ある者は、多く従順の徳を缺いてゐるとか、不従順の弊があるとか稱せられて居る。併しながら私などの考では寧ろ無學文盲の者が本當に従順といふことが出来ない。即ち今私が前に述べた適合といふことが出来ぬのでありまして、本當の知識を受け理想の高い者であれば却つて本當の服従、従順といふことが出来る譯であると思ひます。それでああなたは今後之に就て決して油斷をなさざる事は出来ない。之を實行して行くには多くの履踐を續けなければなりません。鍛鍊をなさなければなりません。故に我邦に於ては從來女子を教育するに三従の道を以てした。又西洋では犠牲の精神を養ふを以て教育の主眼として居る。我邦の武士教育に於ては娘を嫁せしむるに當つて短刀を與へたのである。西洋に於てはかゝる別れに臨んで十字架を贈る風がある。皆さん是から社會に御立ちになるには此の精神が最必要であらうと思ふ。將來に於ても従順、服従、犠牲てふことは忘れてはならぬのであります。

今や我邦の男子は國家の急に赴いて居ります。あなた方教育を受けて此の特權を受けられた女子は我邦の此の未開の半面を開拓する爲に一致團結して決死隊となつて躬を殺して仁を成すの勇氣を以て社會に出て戴きたいのです。此の決心を永久固め

んが爲に又此の目的に就て必勝を期せんが爲にあなた方は將來櫻楓會の幹から一日も離れてはなりません。又もう一つ申して置きますが貴嬢方は將來如何なる所に行き、如何なる業を御執りになつても決して此の家庭を離れてはなりません。若し教育をなさざるならば先づ家庭生活を拵へて此の四圍の境遇とあなた方の人格に依つて生徒を薰陶して御出にならなければならぬ。又如何なる事情の爲に家庭を御離れになつても私の申す意味の此の家庭を決して離れてはなりません。此の櫻楓會と此の家庭即ち、此の學校に於てあなた方が御養ひになつた所の此の家庭は永久あなた方を保護しあなた方を養うて行きます。同時にあなた方の身體生命を養うて此の關係に依つて此の聯絡に依つて此の生活に依つてあなた方個人の勢力を増し、此の勢力を一に集中するの働きをなして、始めて誠に困難にして到底今日まで誰もなし能はざりし所の第二の維新をあなた方の手で爲し遂ぐる力を養ふに足るであらうと私は信ずるのであります。

終りに一言、附屬高等女學校の卒業生諸子に申して置きますが、諸子にも先日別の時間を設けて卒業後の方針に付て御話をしましたから、今日はごく簡単に一言を添へて置きます。あなた方の大部分は是より本校の大學部に御入學になり、其の他の部分は社會てふ大學に御進みになるのである。何れにしてもあ

なた方は是より益々進んで行かうといふ御希望であります、  
私はあなた方にも今申した所と同様な趣意を申して置きたいの  
であります。どうかあなた方も此の櫻楓會と一致協同なすつて  
此の新日本の母たるに適ふ品性を養うて、櫻楓會が目的として  
居る所を目的として、今日の女子の特別なる責任を全ふして頂  
き度いと希望して置きます。

〔學報〕第三號・卒業式講話 明治三十七年四月